



子 5
3744



45
3744

移 4
1725
卷

門 子 5
號 3744
卷

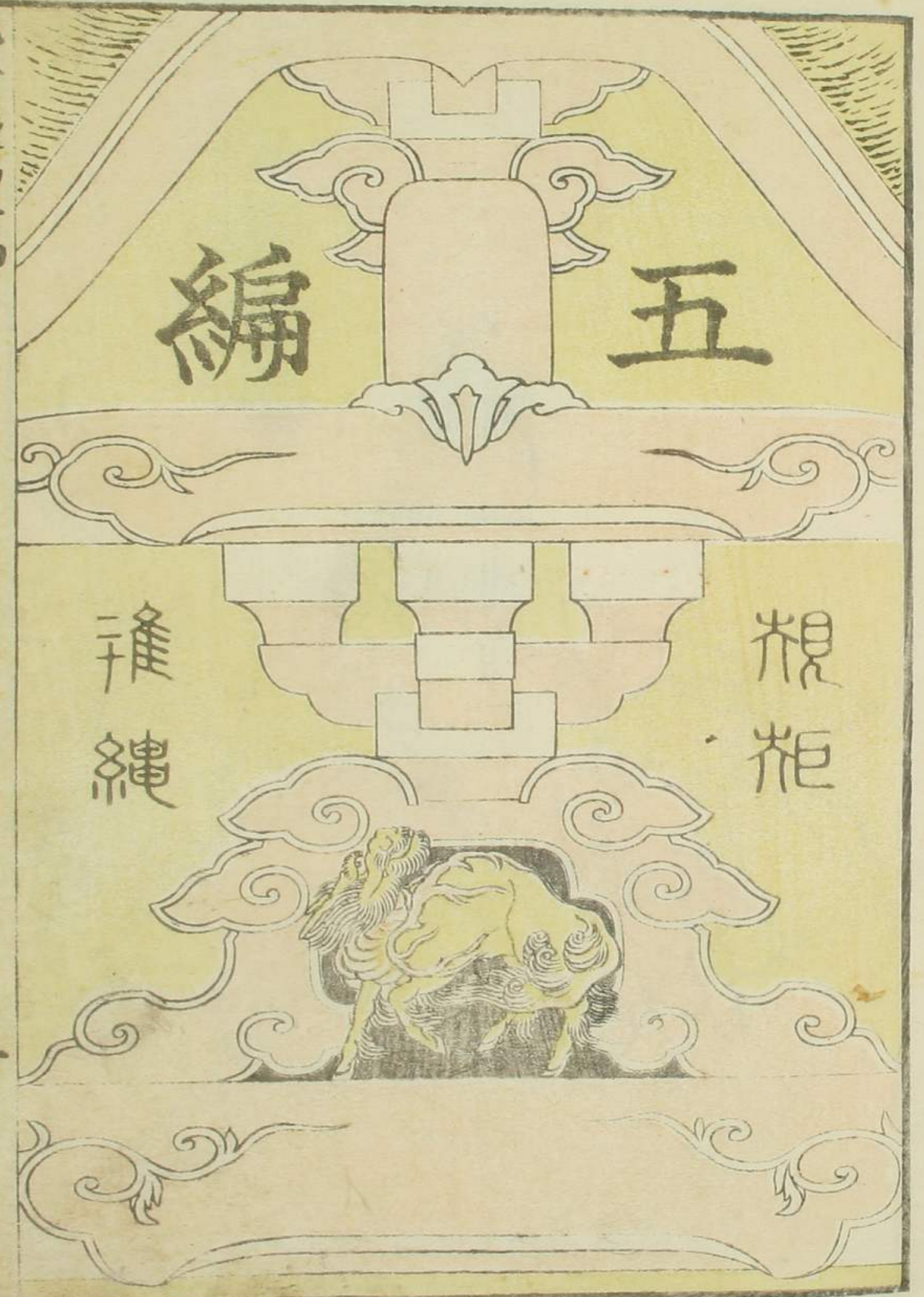
橘の金

橘の金のついでに...
か...の...
く...
の...
ふ...
の...
ま...
あ...
あ...
あ...

明治四十二年九月十七日
新井昌平氏を贈

人々を以て其の... 卷之五... のあり... くにた... 本家の... け... び... び...

六梅園



北齊書卷之五

手置帆負命



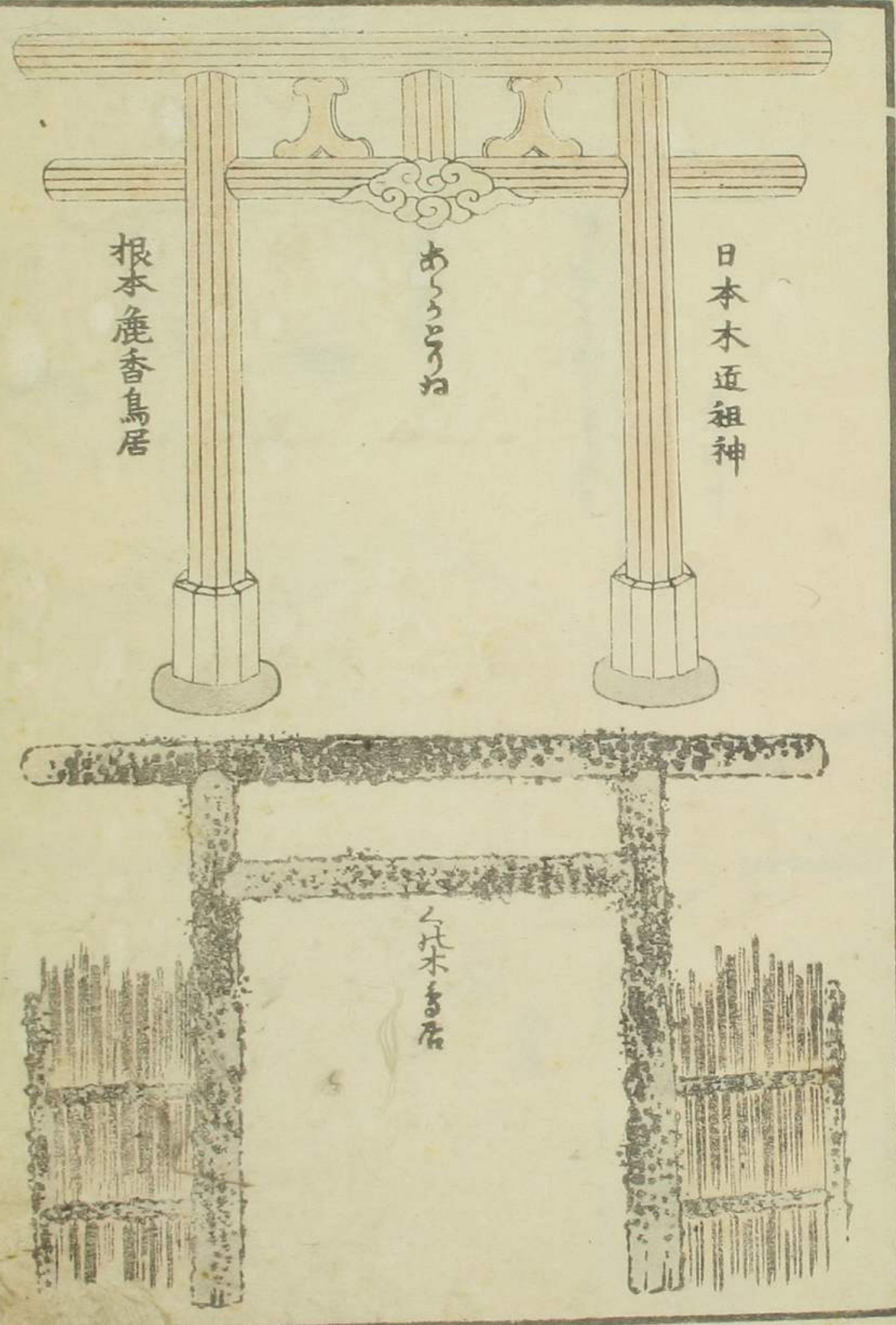
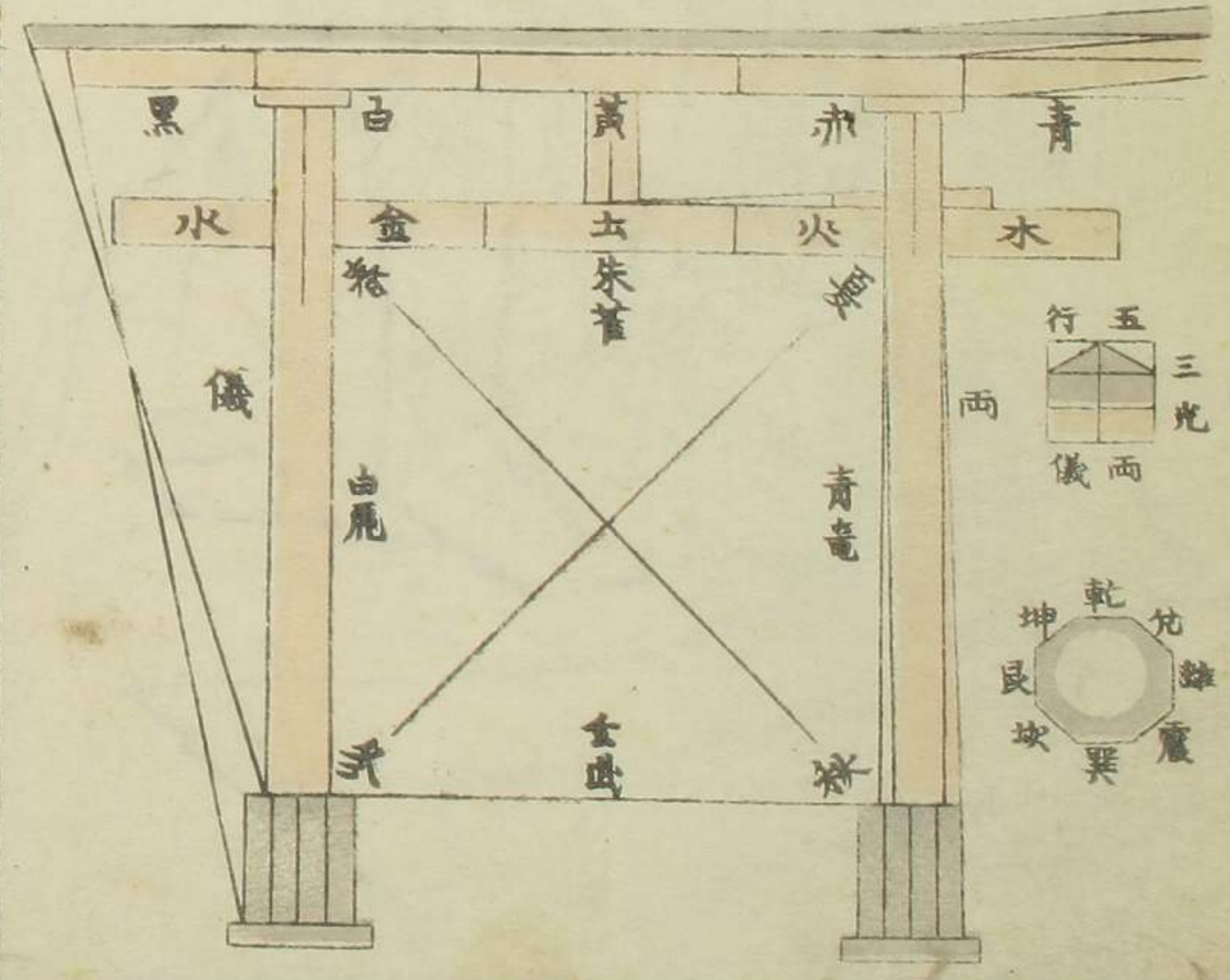
天彥挾知命



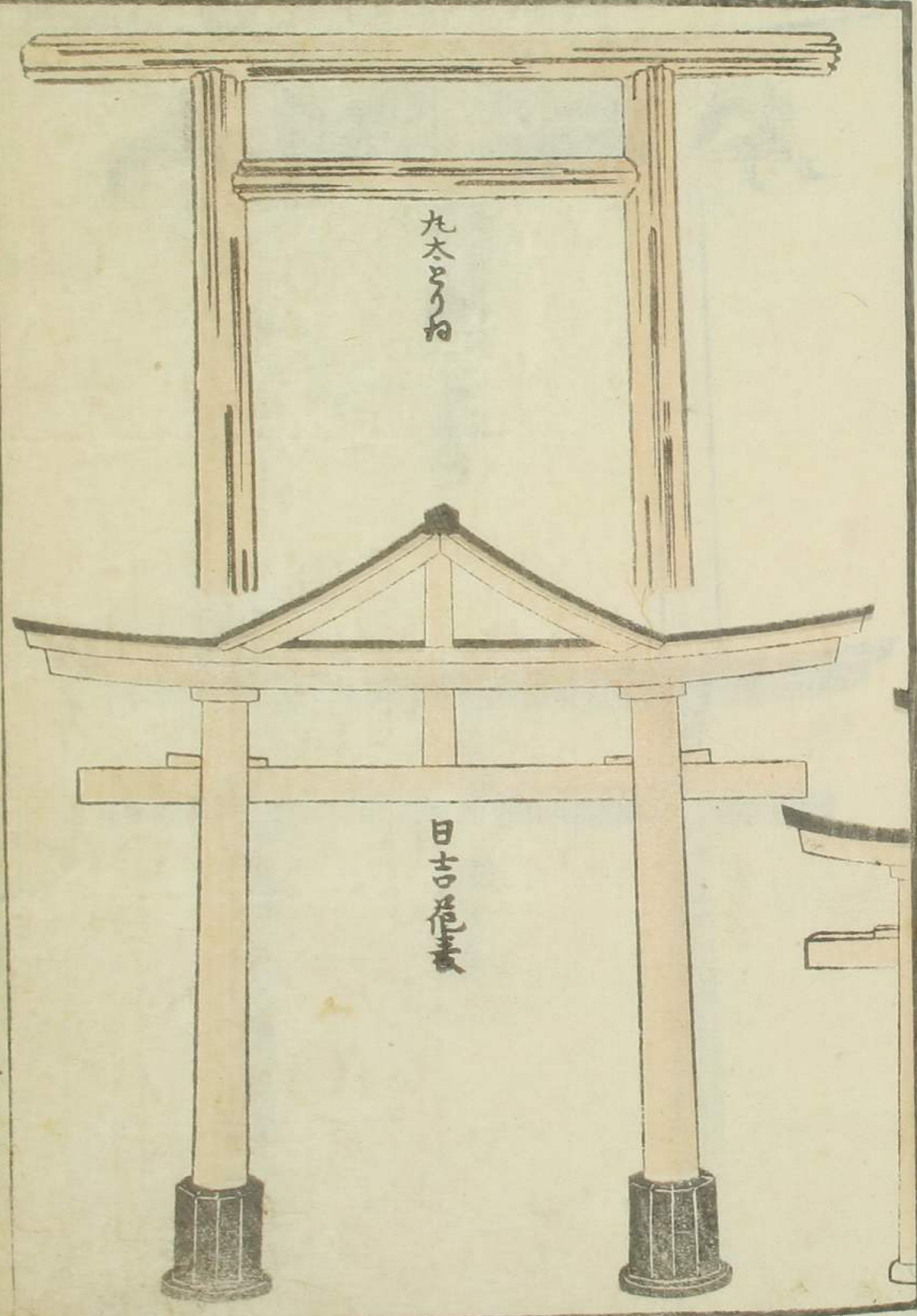
宮室を画くは乃事
 通家の流其秘なるを漫説るを
 せざる尺寸の相違をおとて古人も
 尺法洋小画くをせむ滴を散を必
 たりといふも多々密画して俗眼と悦む
 者多己が不知の妄を庶ふ只臨本とかり
 て古人のあやまるは致我上小引う後世の
 穢をさるるの族画を学むとて古人を
 まをりふといふべし

二 兩儀 日月星 四季 五行
 七 七星 八 八課 九 九曜

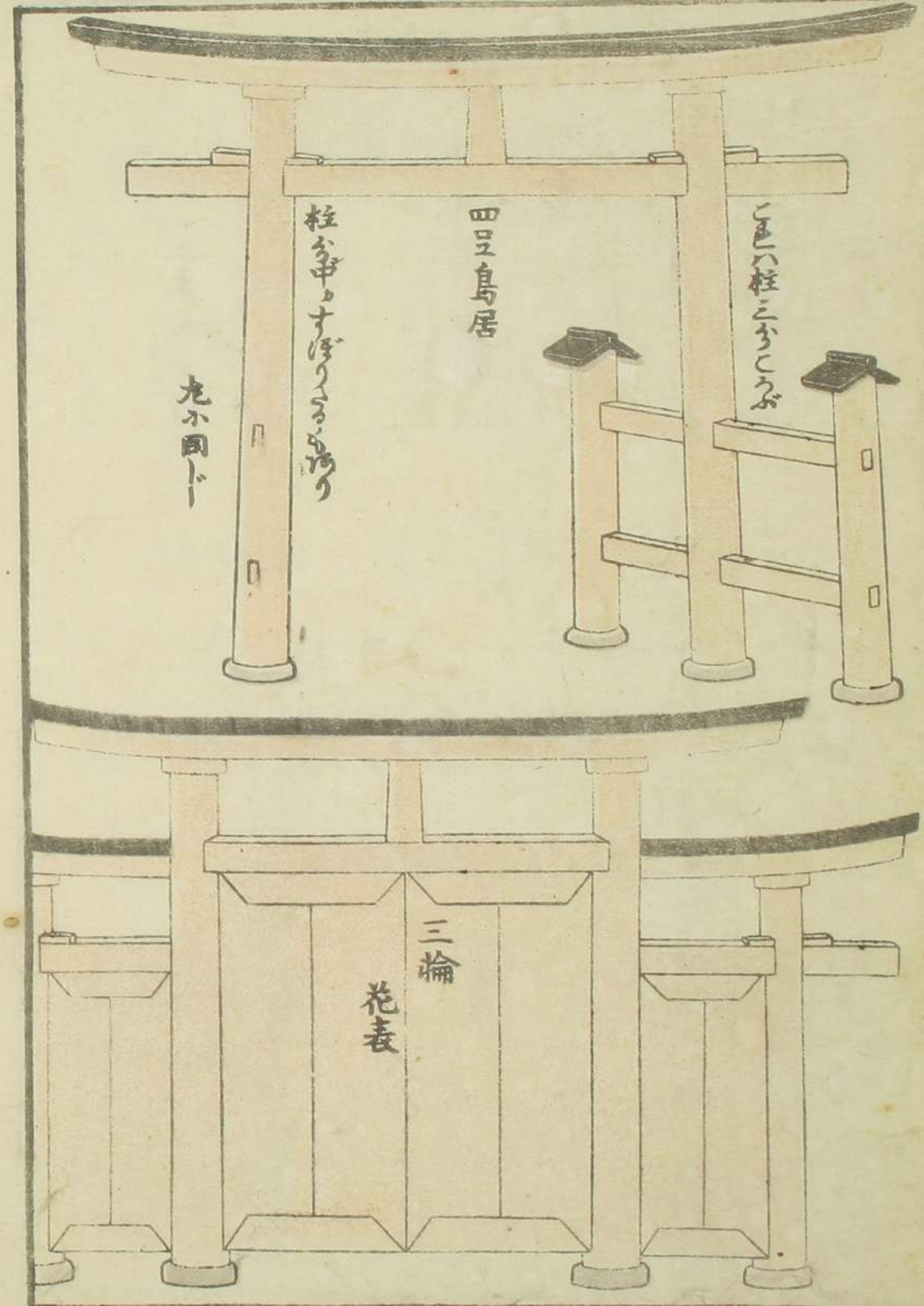
この數を眼前の形其長短小引きて考ふ
 とまの宮殿樓閣といふとも画り安うべし



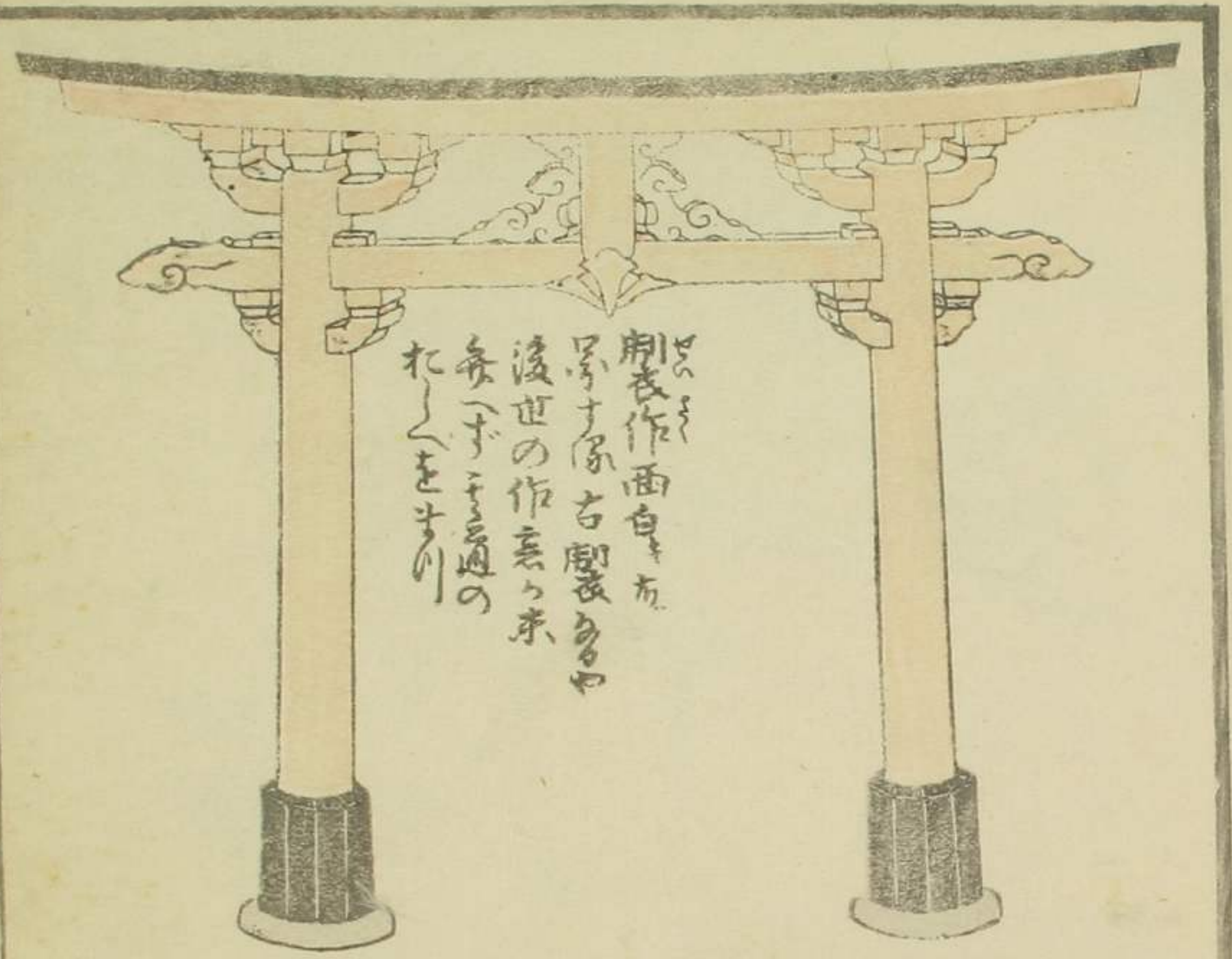
北野神社



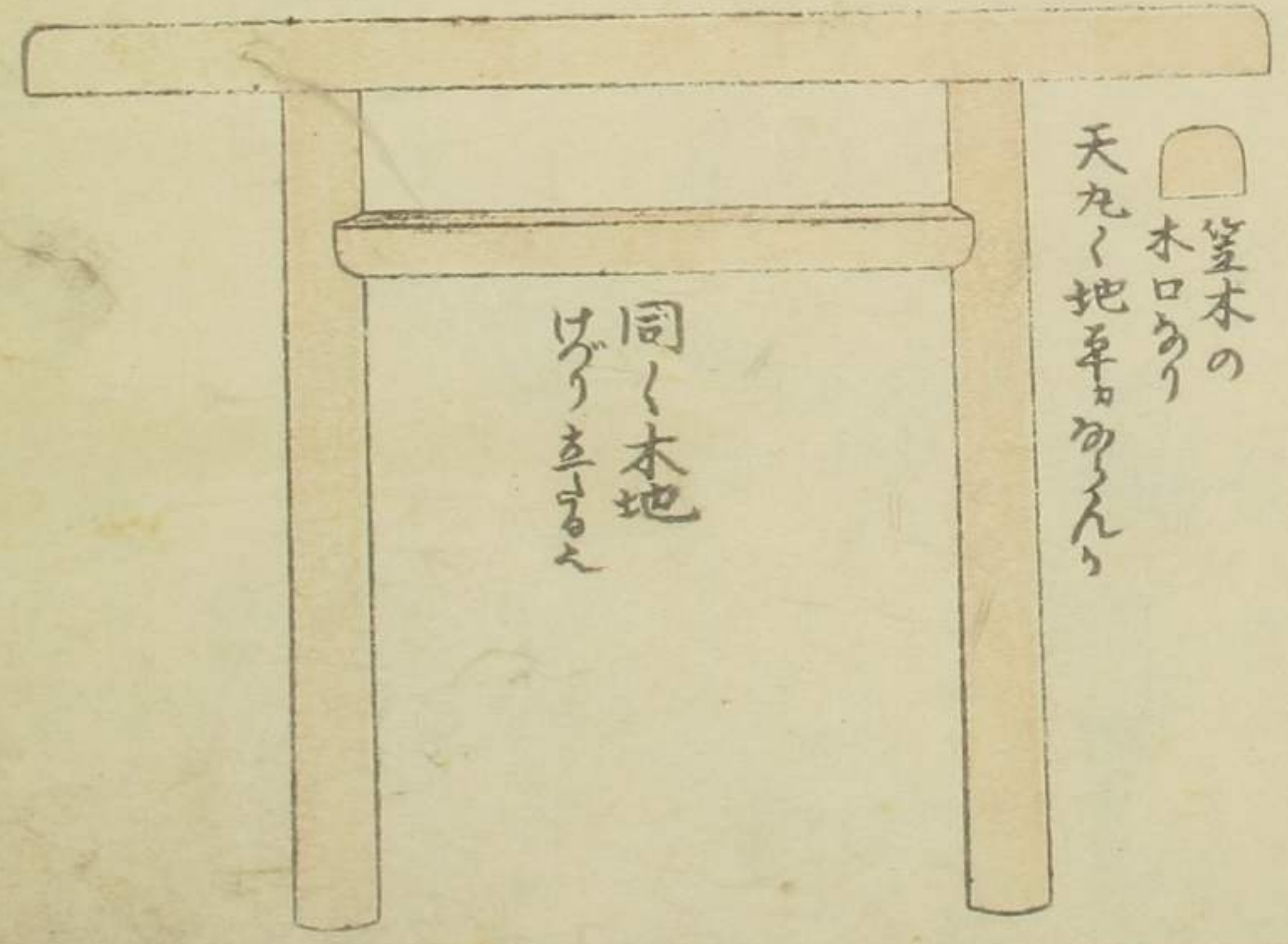
二



北野神社

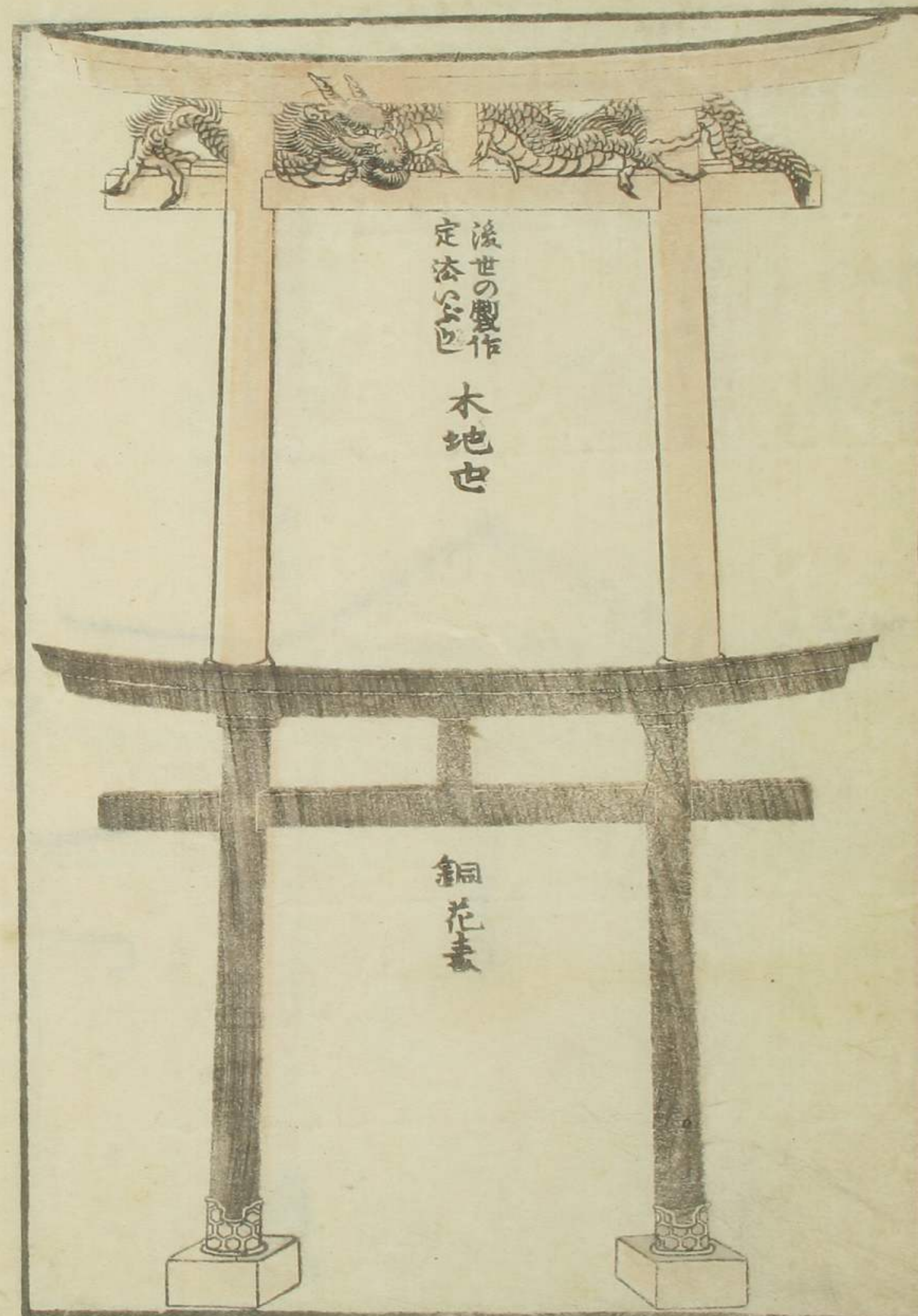


削表作面
只才家古製
後世の作
糸下子通の
れくをすの



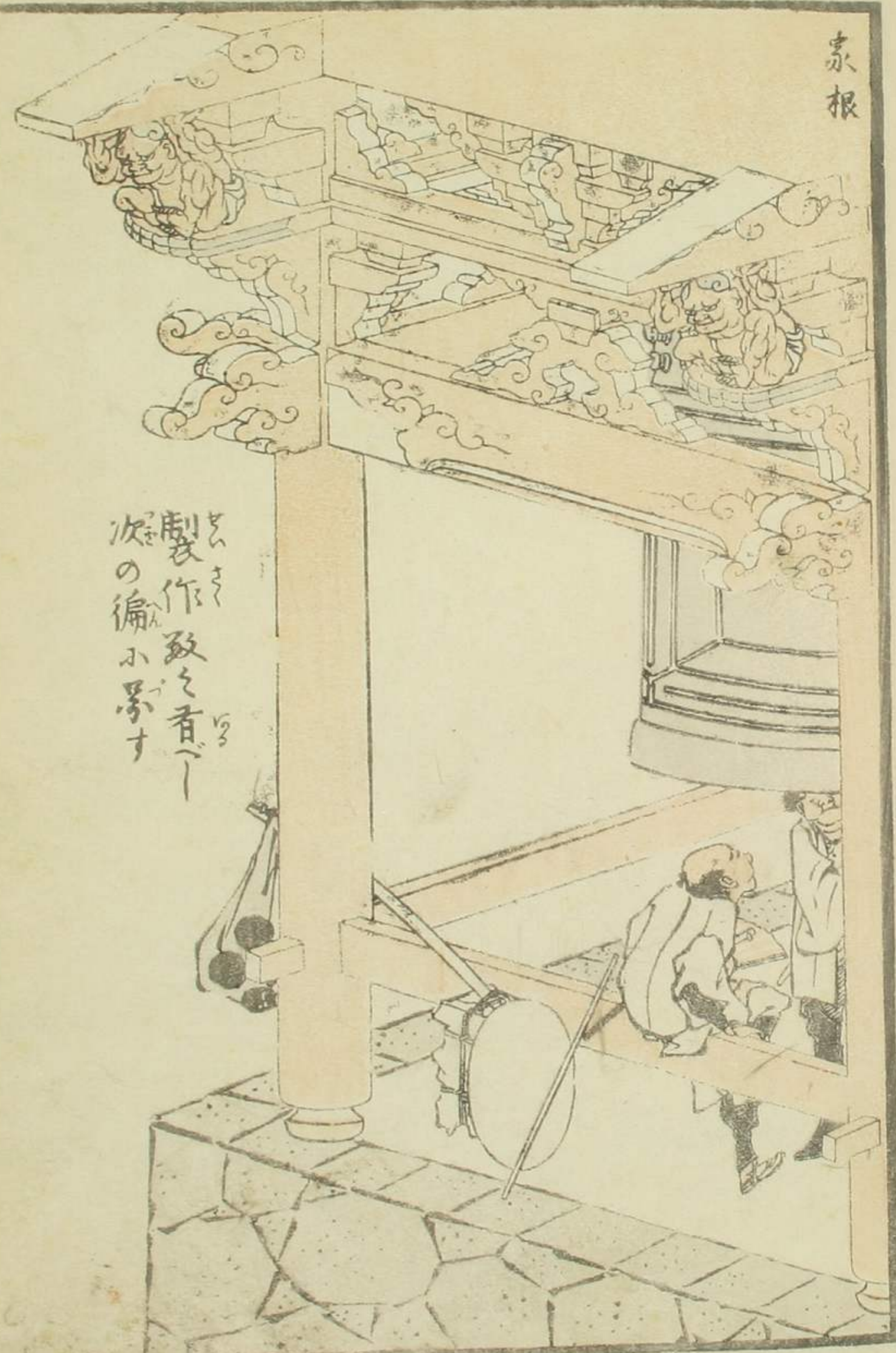
同じ木地
けりま

望木の
木口あり
天丸く地平
かえん



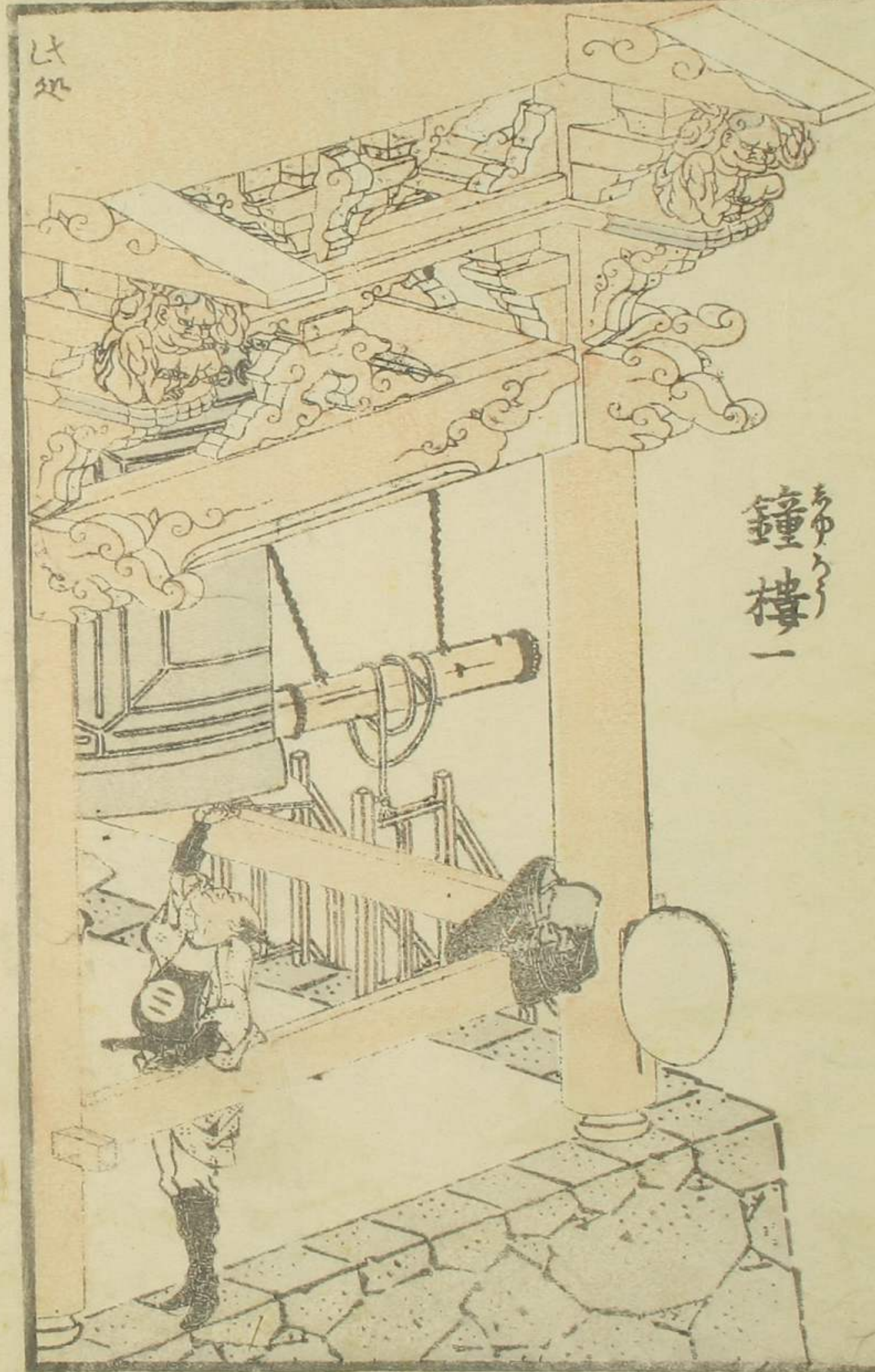
後世の製作
定法
木地也

銅花表



泉根

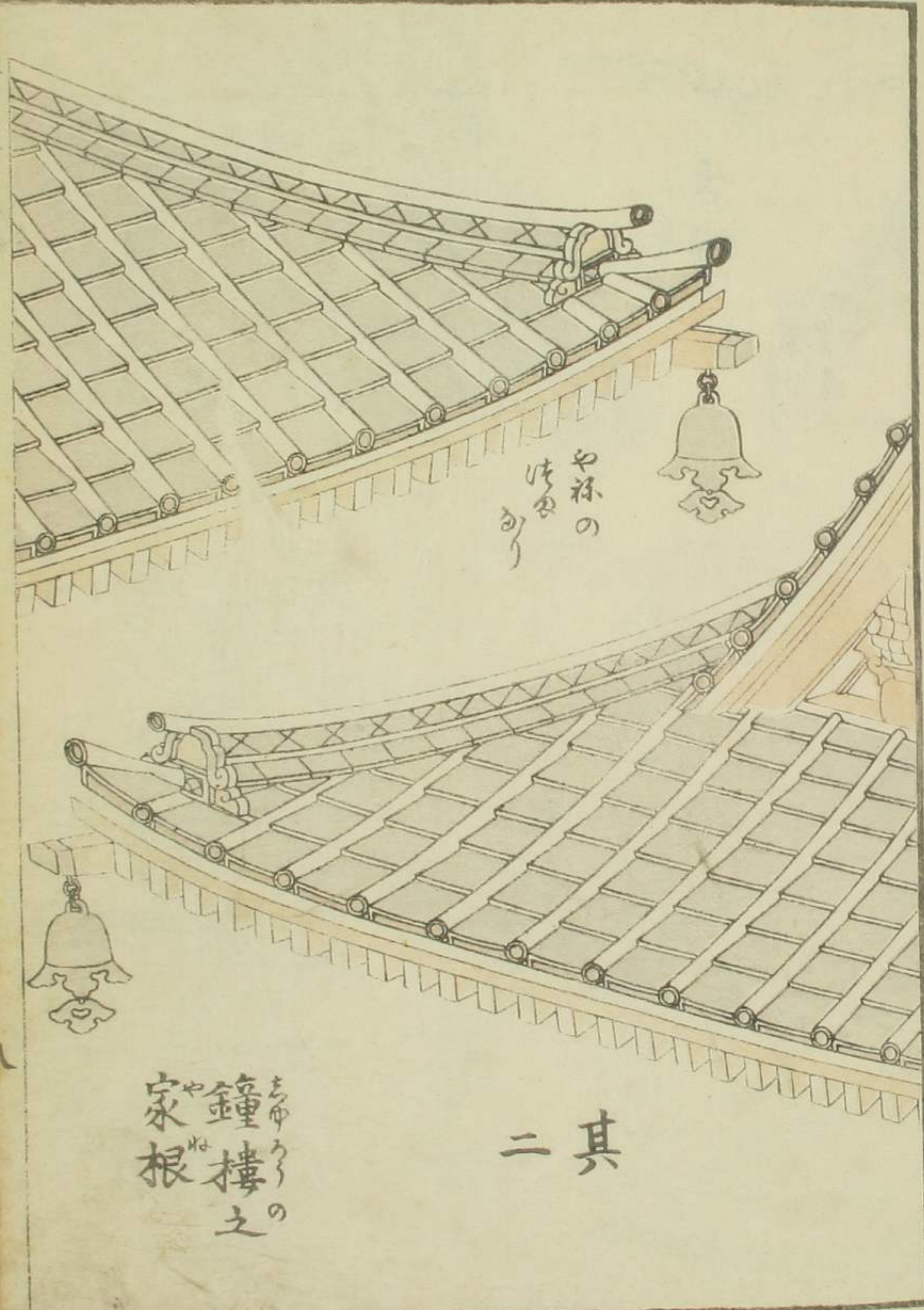
製作致す者
次の備小景ナ



此処

鐘樓

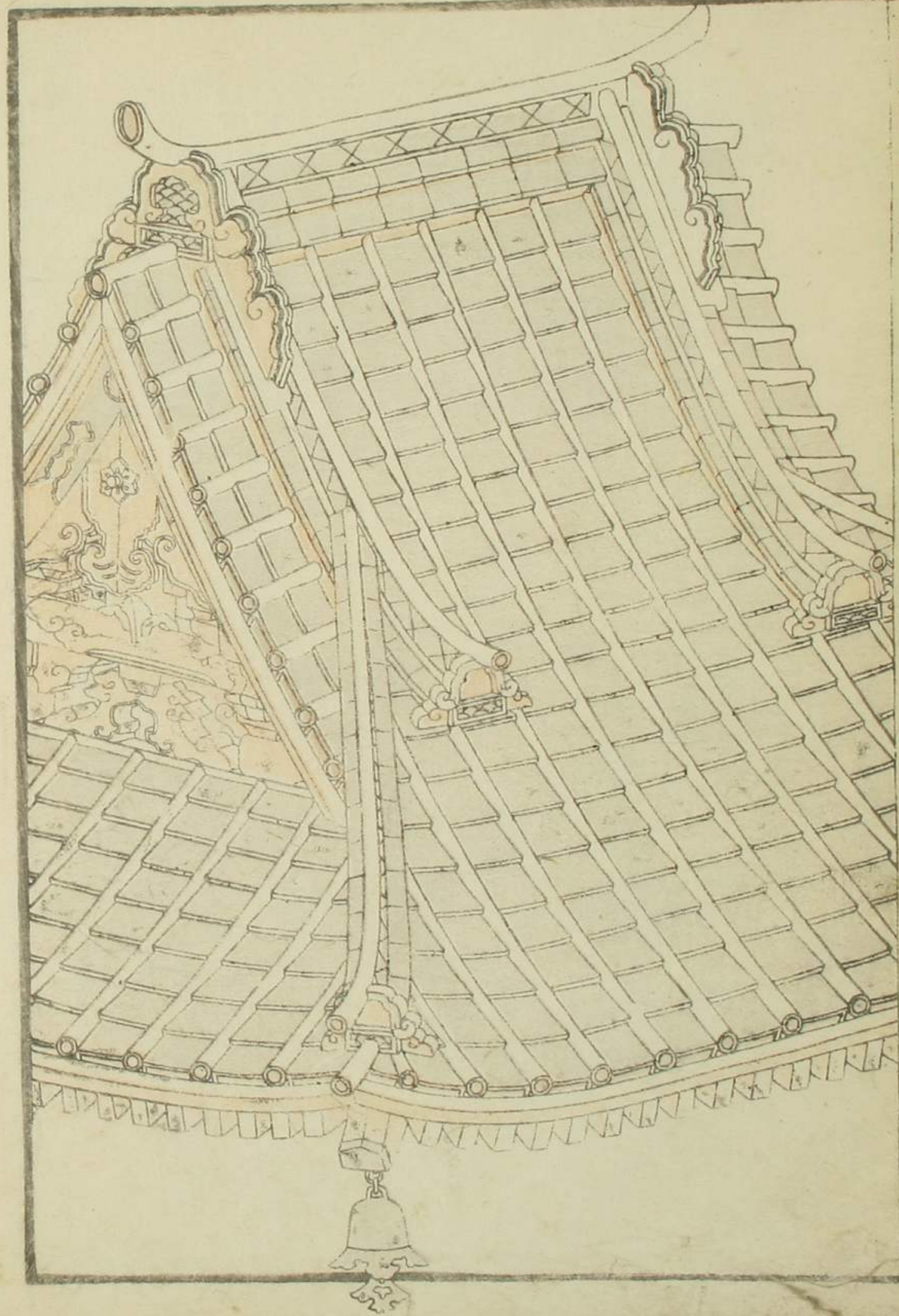
此處鐘樓



や木の
はら

家鐘
根^の樓^の
之

二其

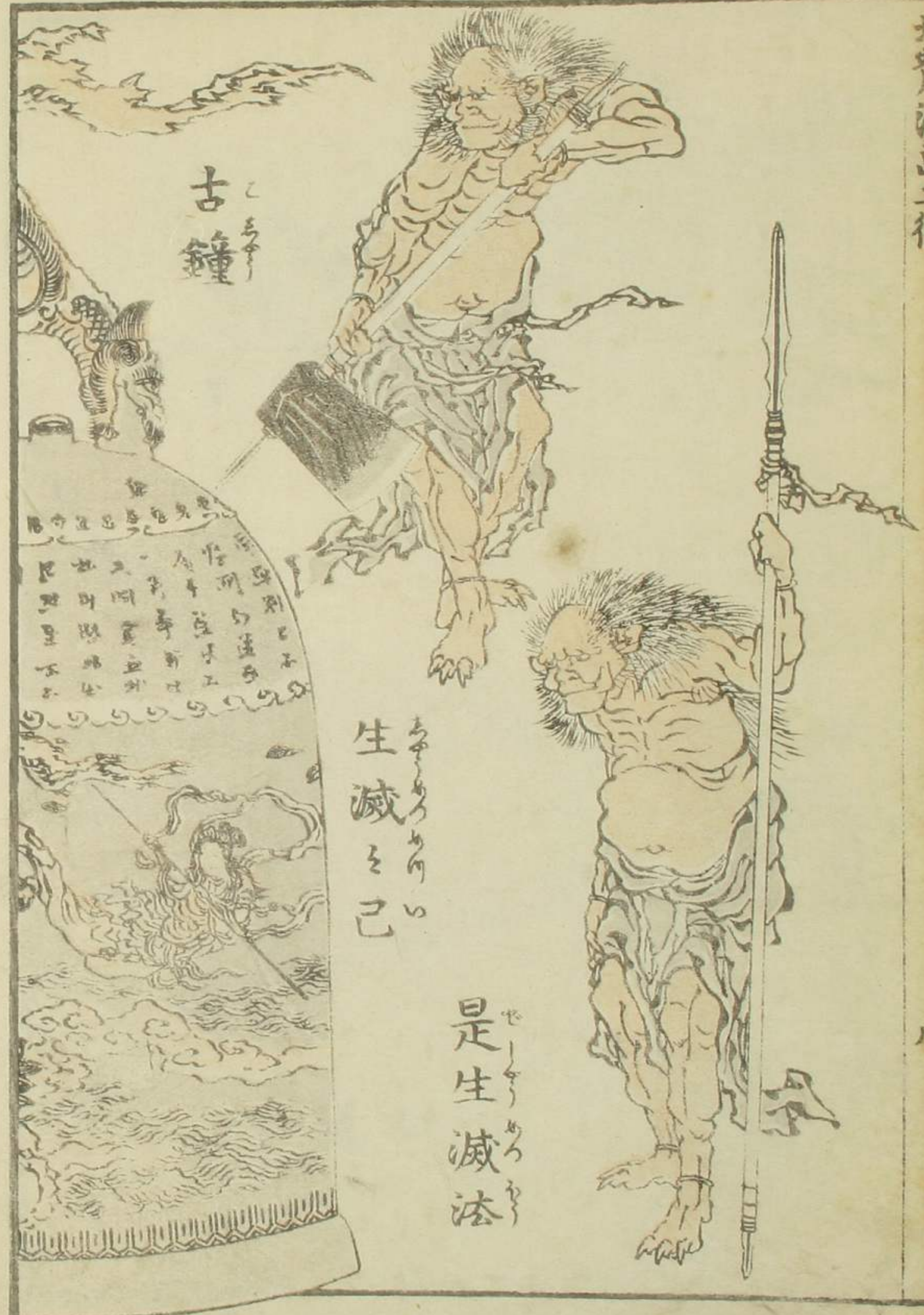




寂滅為樂

四句之
文利鬼

諸行無常



古鐘

生滅之已

是生滅法

普建

傳大士

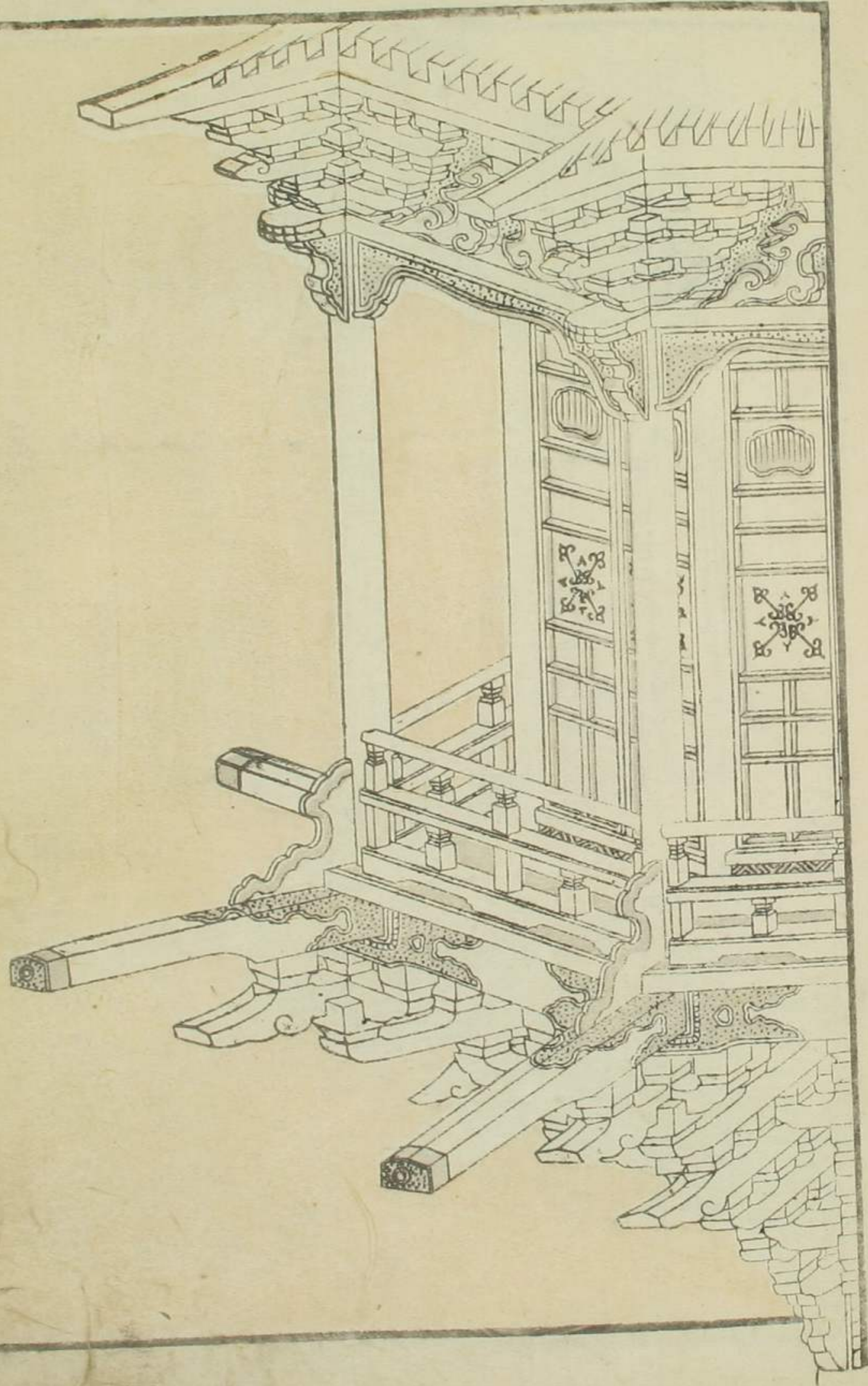


一切經を見守りかじりて
一柱八面の輪藏を起し
末世小波し

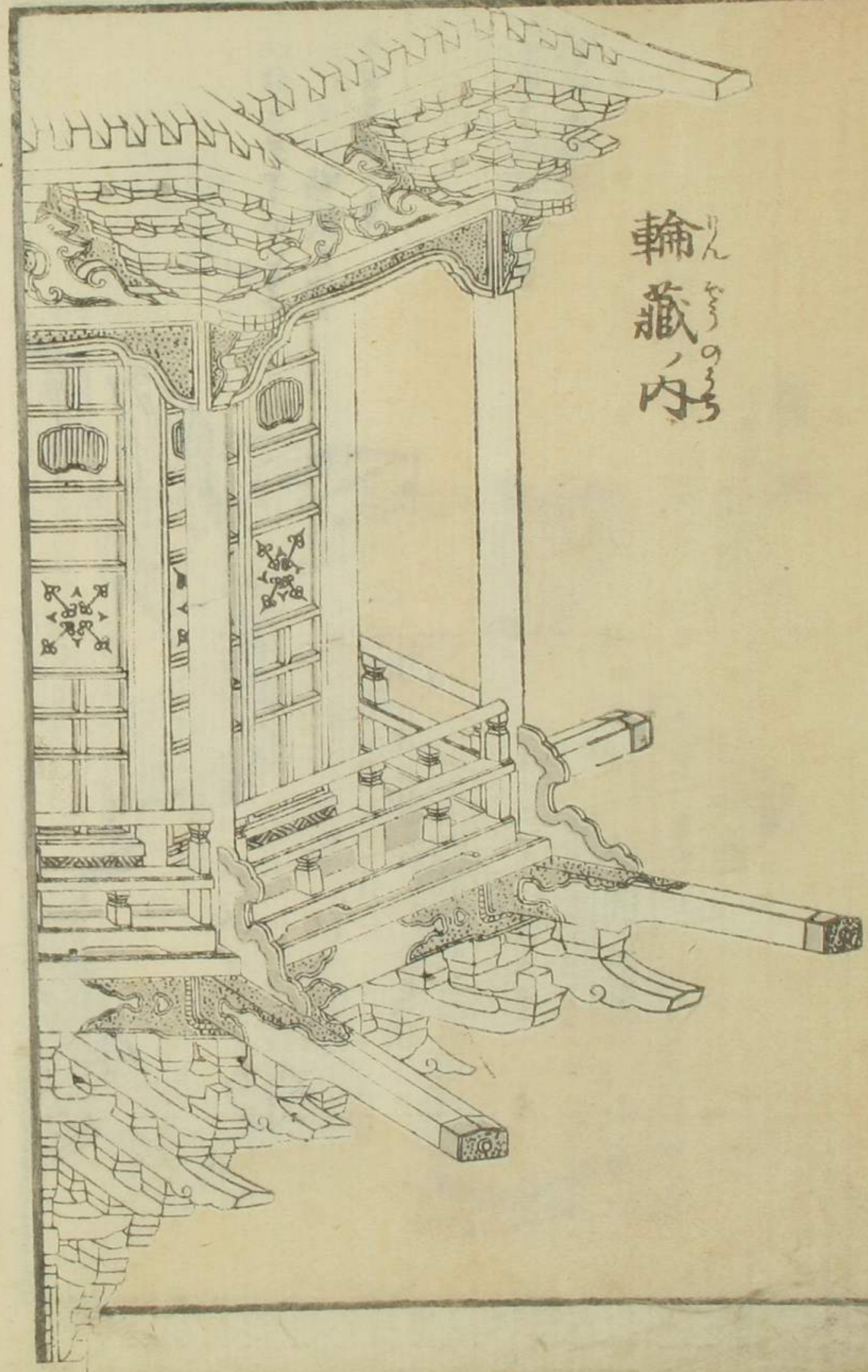
大建元年四月廿七日
本州遷化

普成





輪藏内

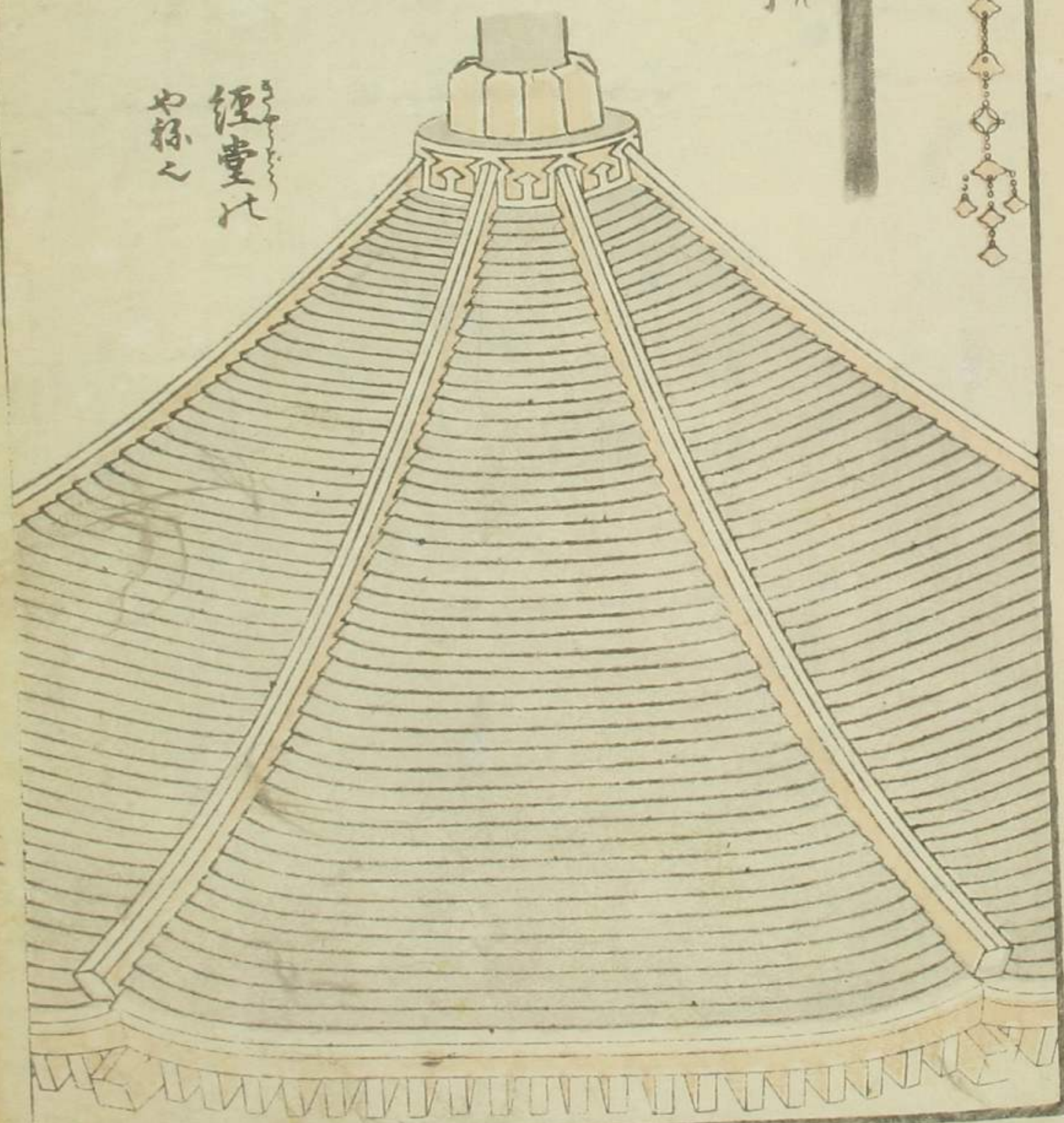


裏文曰
迷悟三界城
悟故十方空
本來無東西
何處有南北

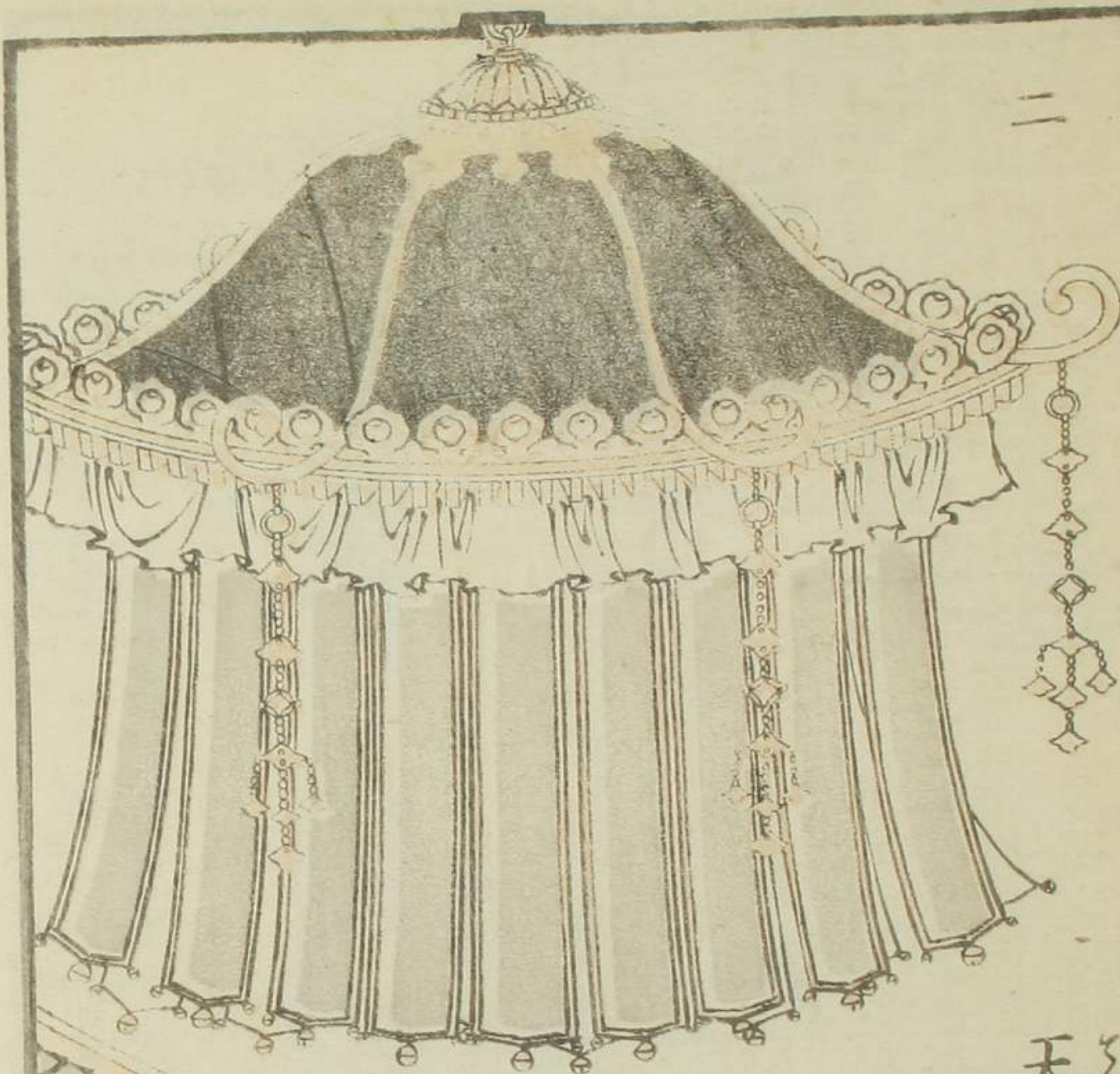
徑臺也



等



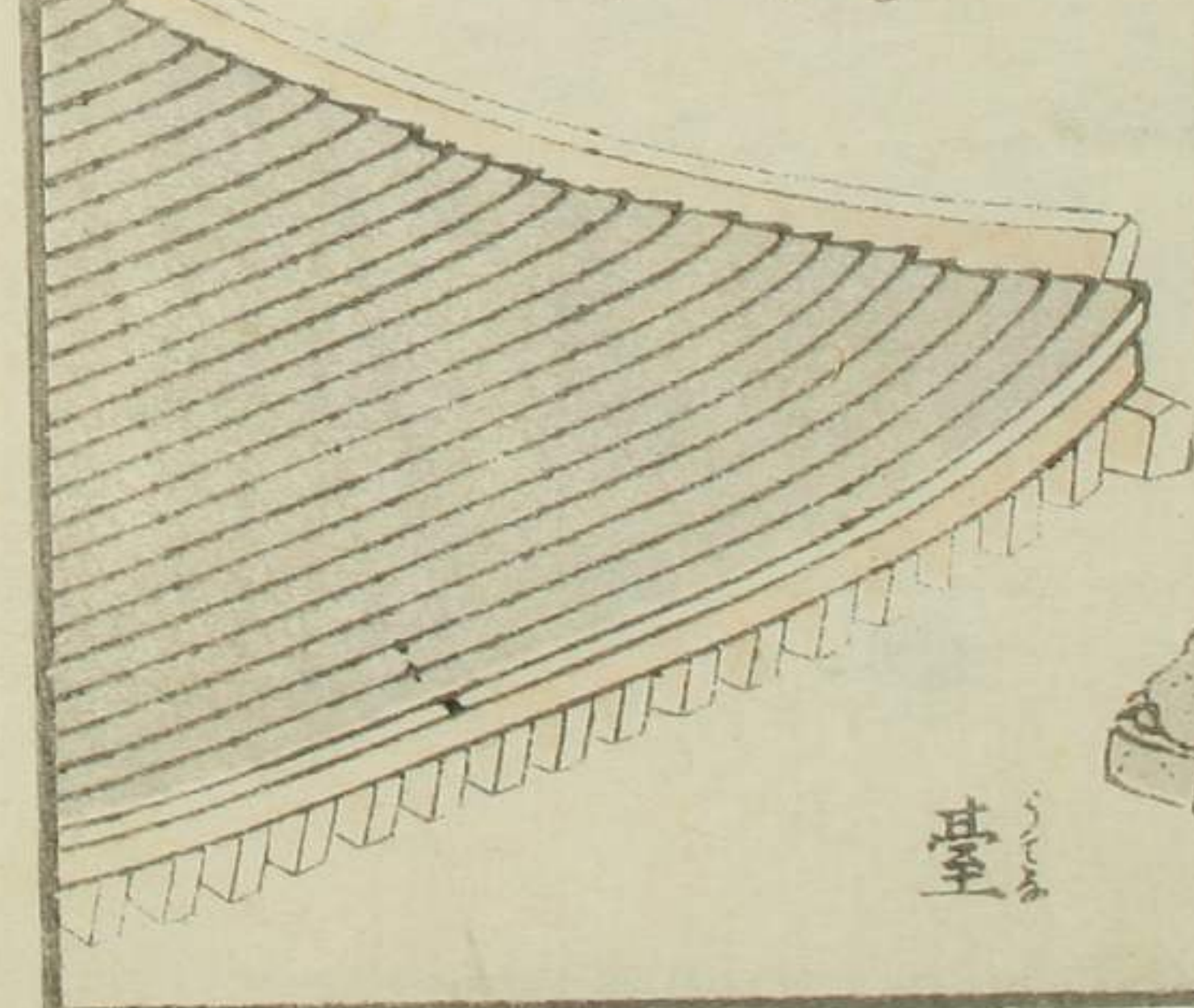
二

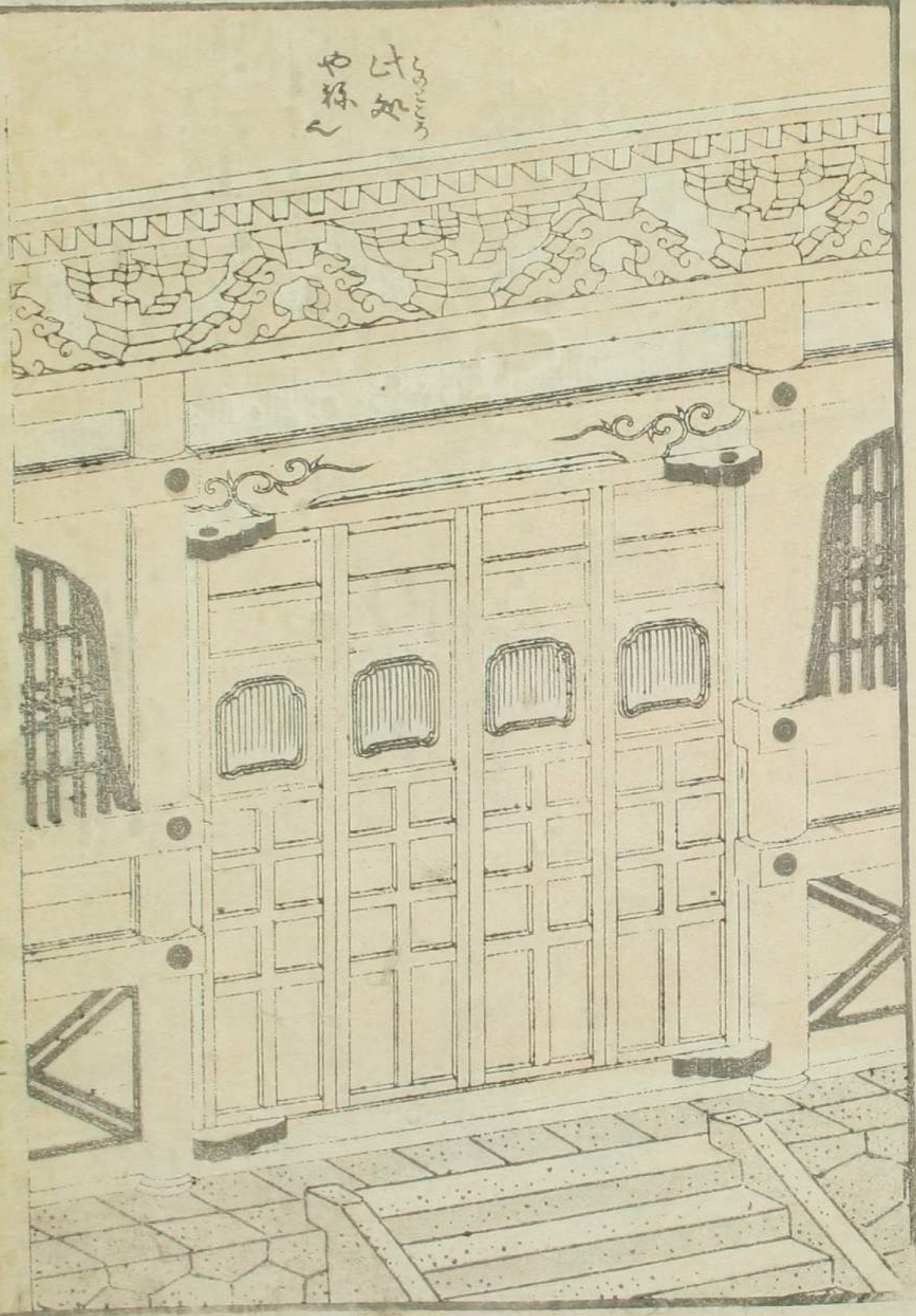


天蓋

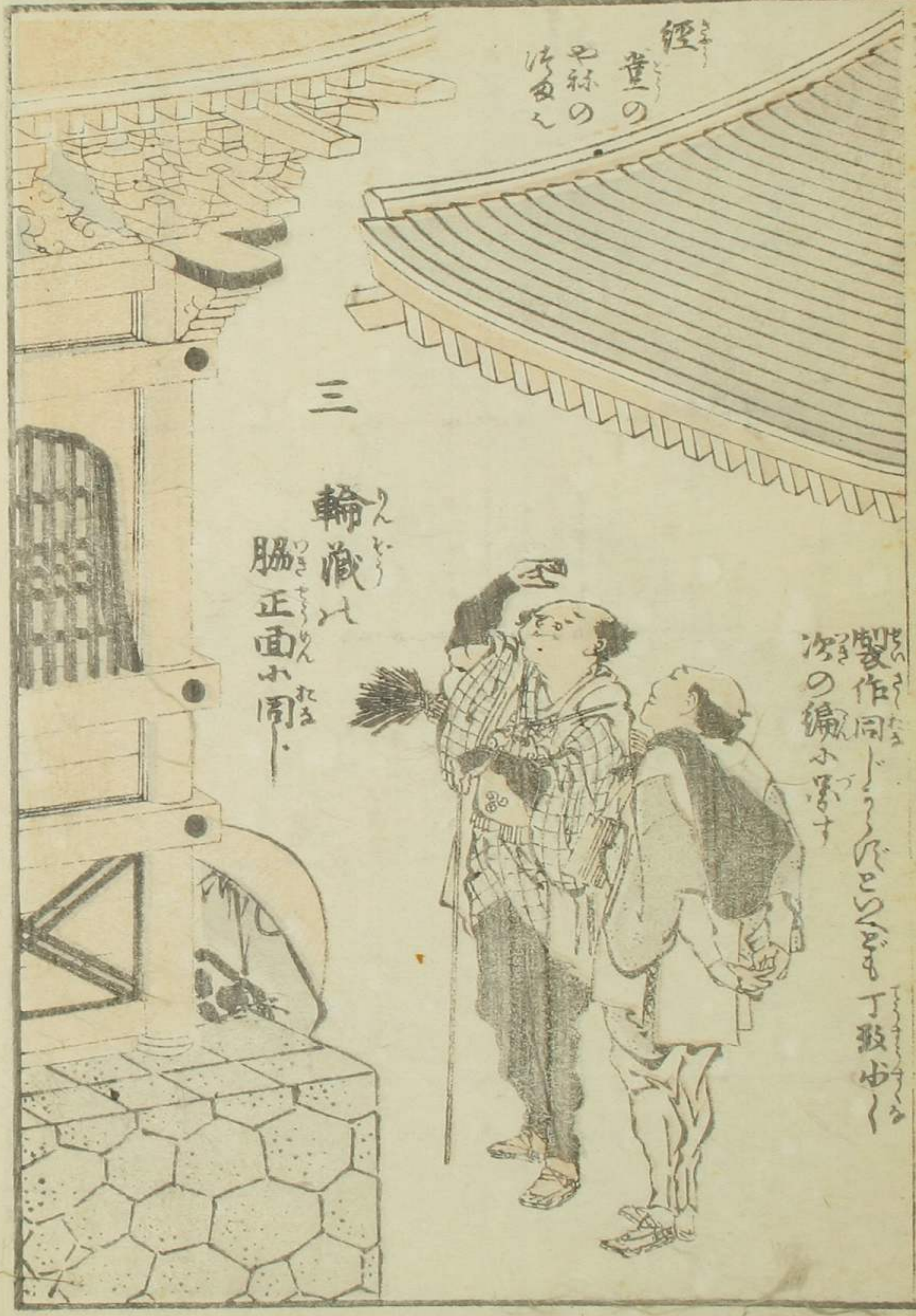


臺





け
か
や
か



経
童の
毛
の
は
ま
ん

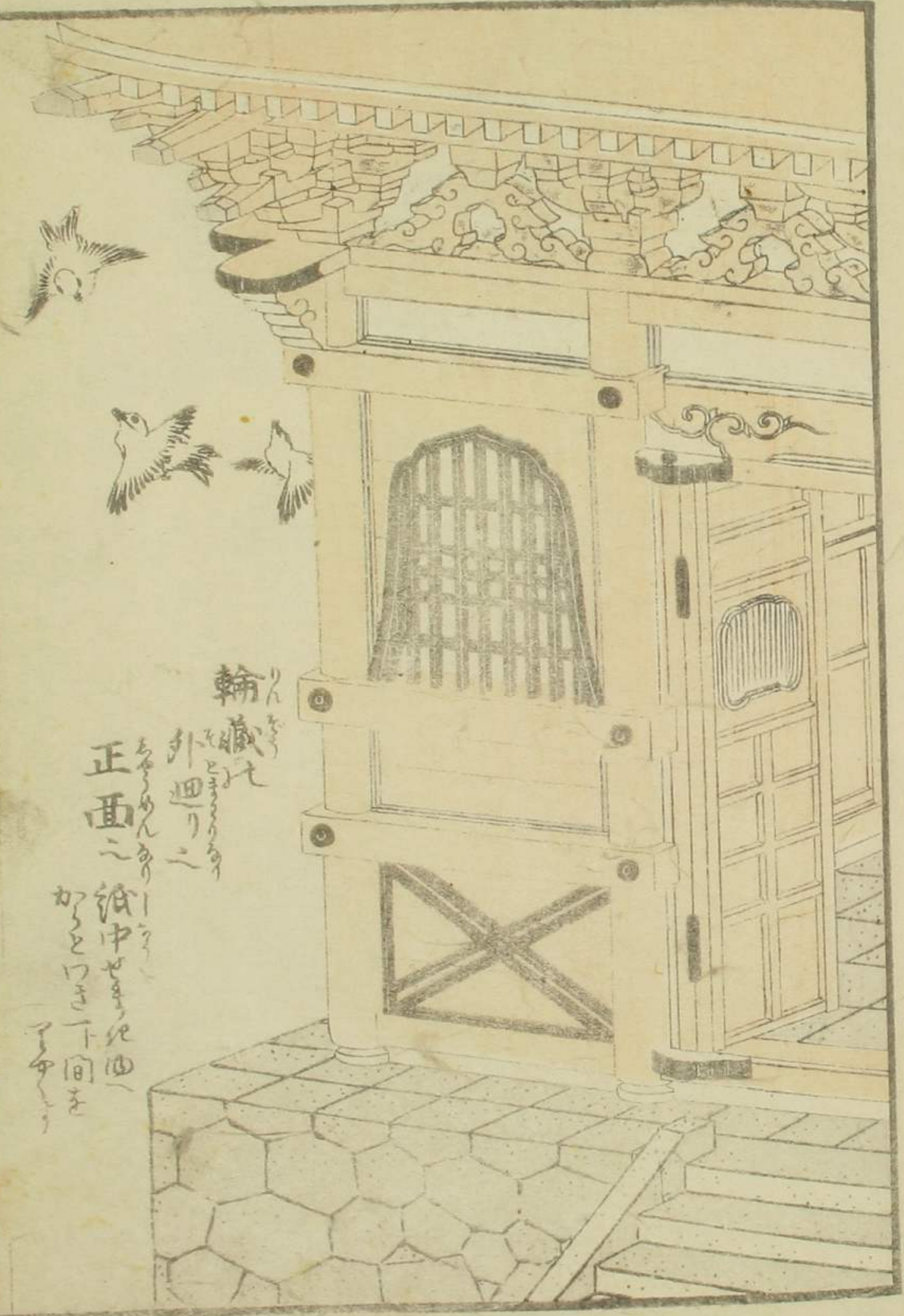
三

輪
蔵
脇
正
面
小
間



製作
同
丁
致
少
の
編
小
間

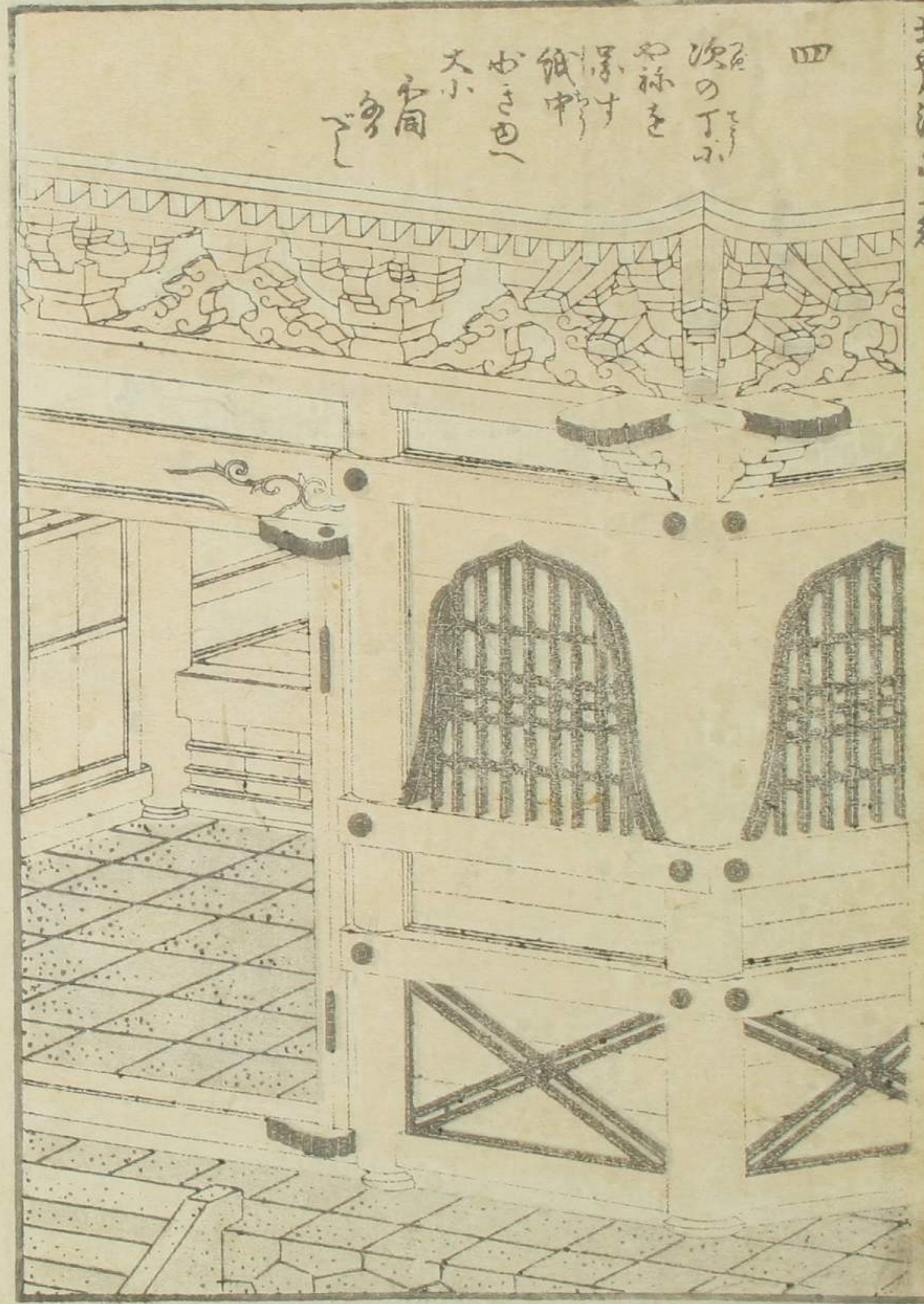
七五五五五五五五



輪藏
外廻り
正面
紙中
か
下
間

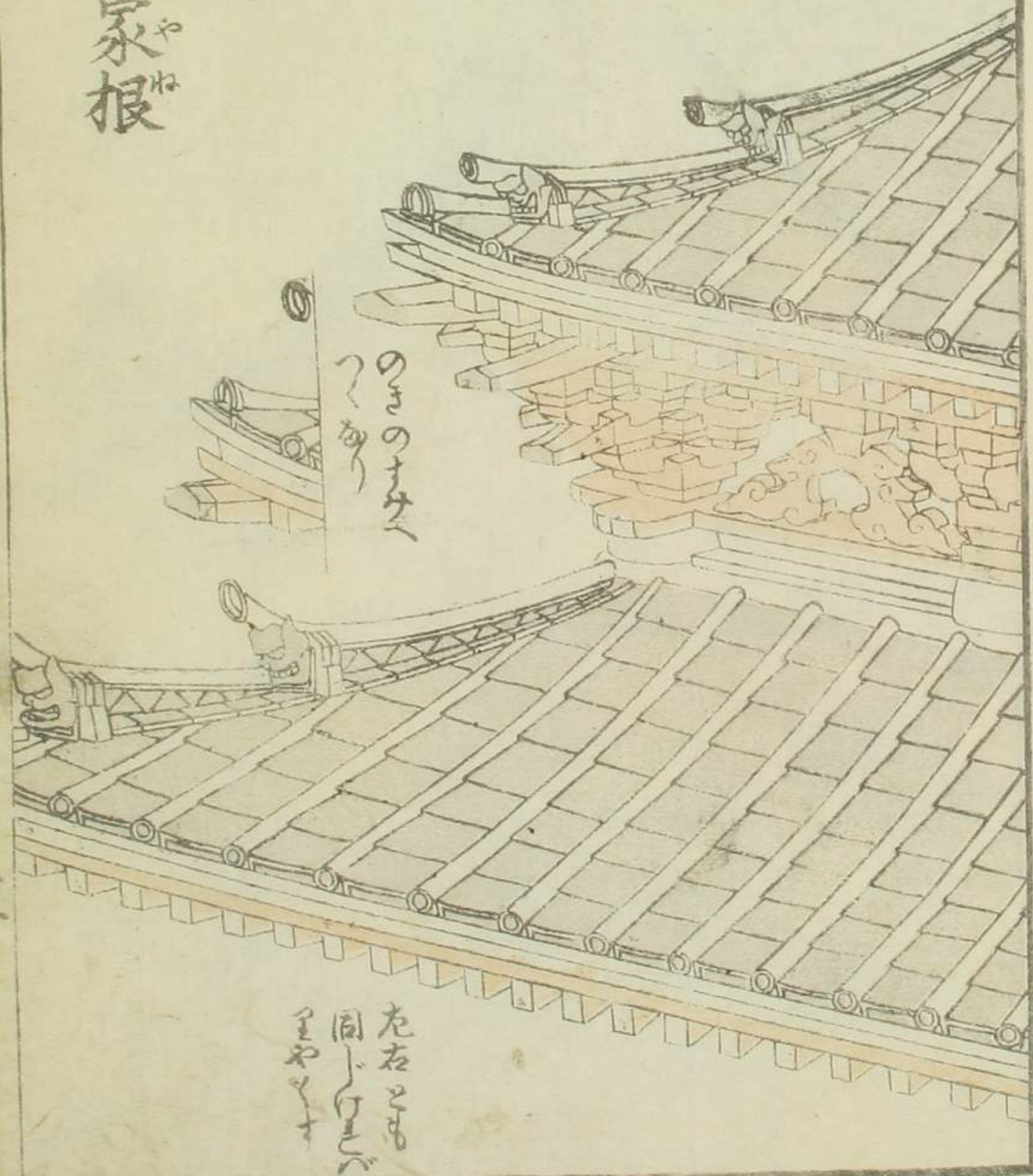
四
次の
紙中
大小
か
さ
間

五五五五五五



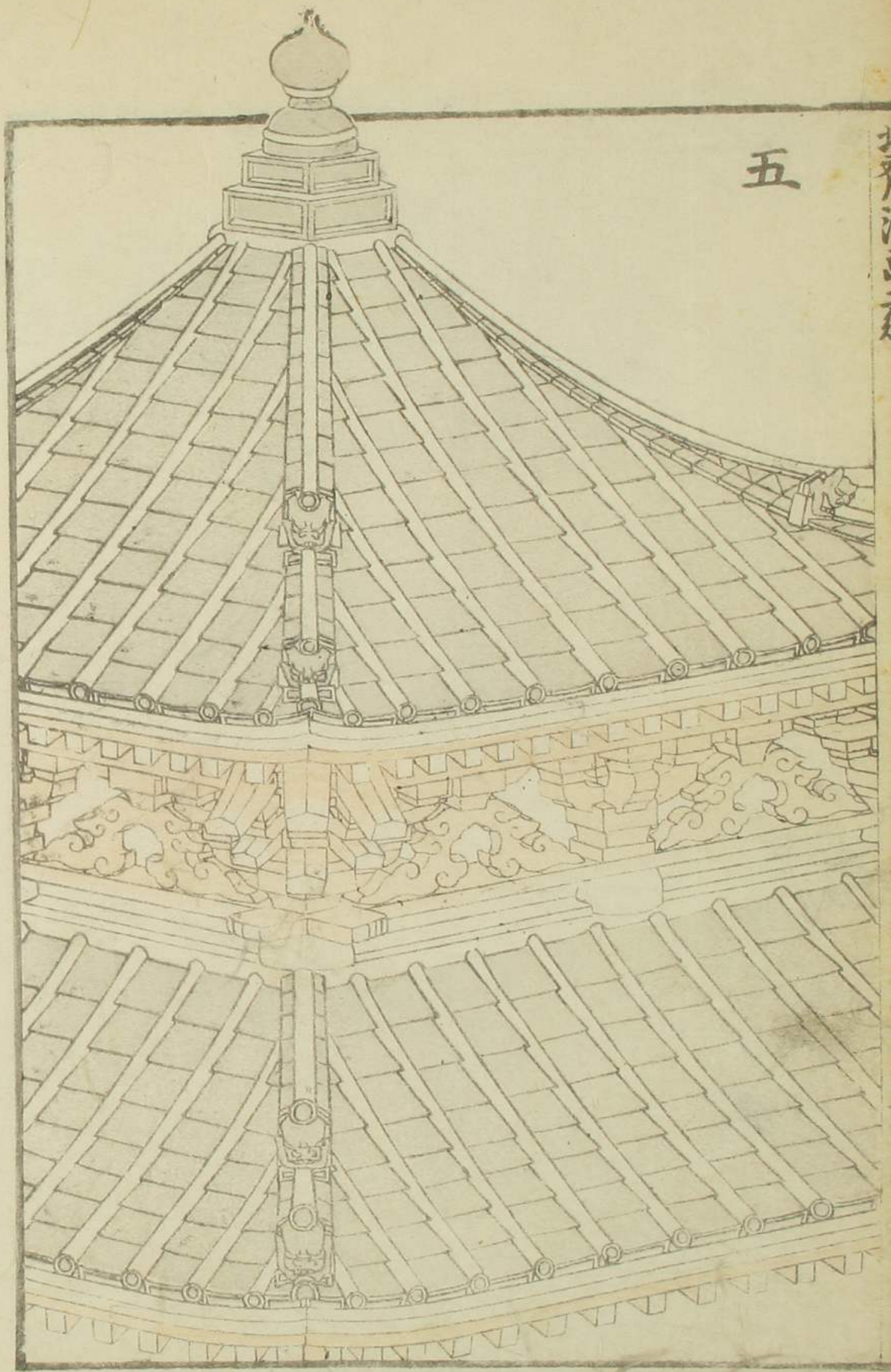
輪藏

家根

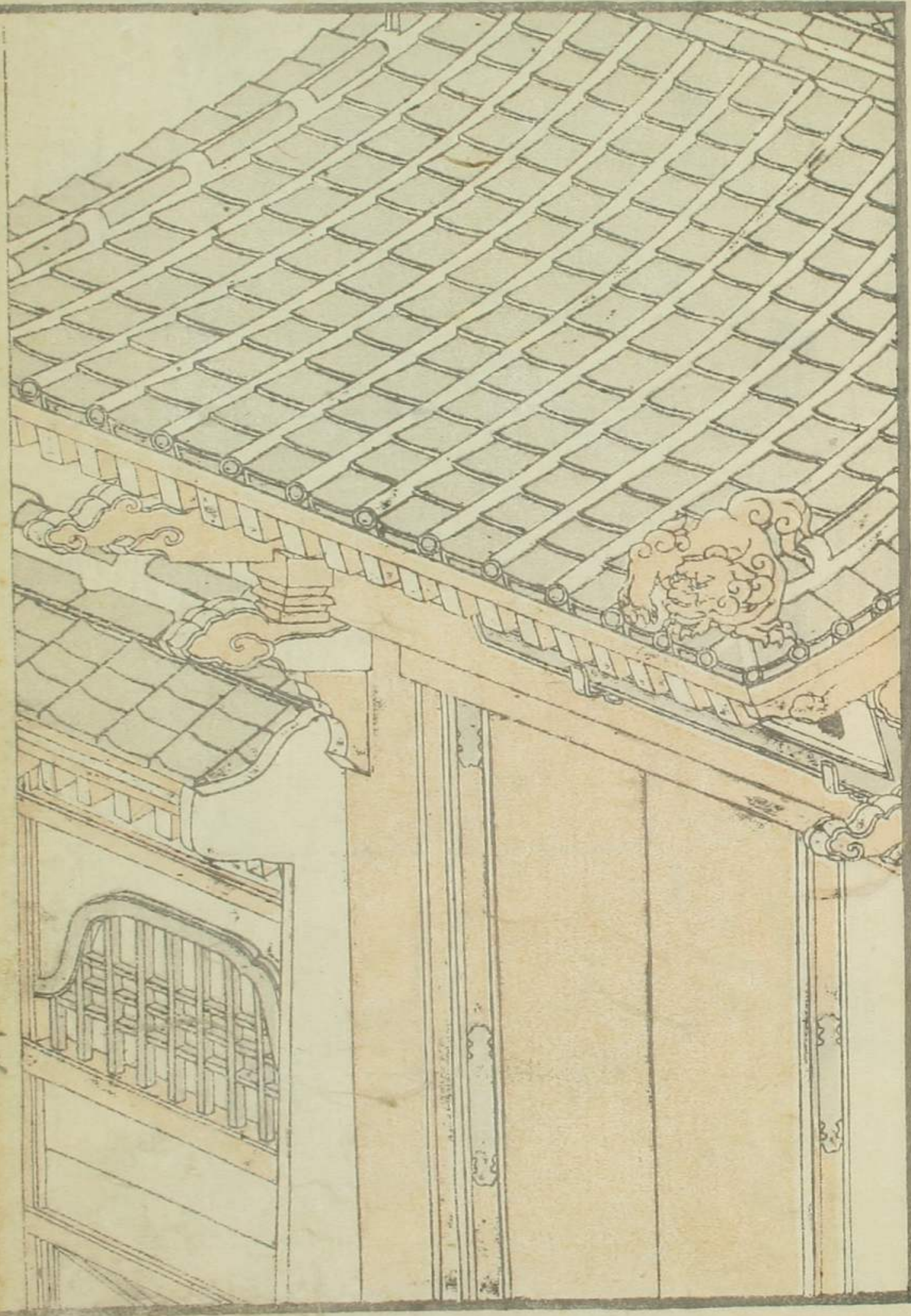


左右とも
同じく
なり

五

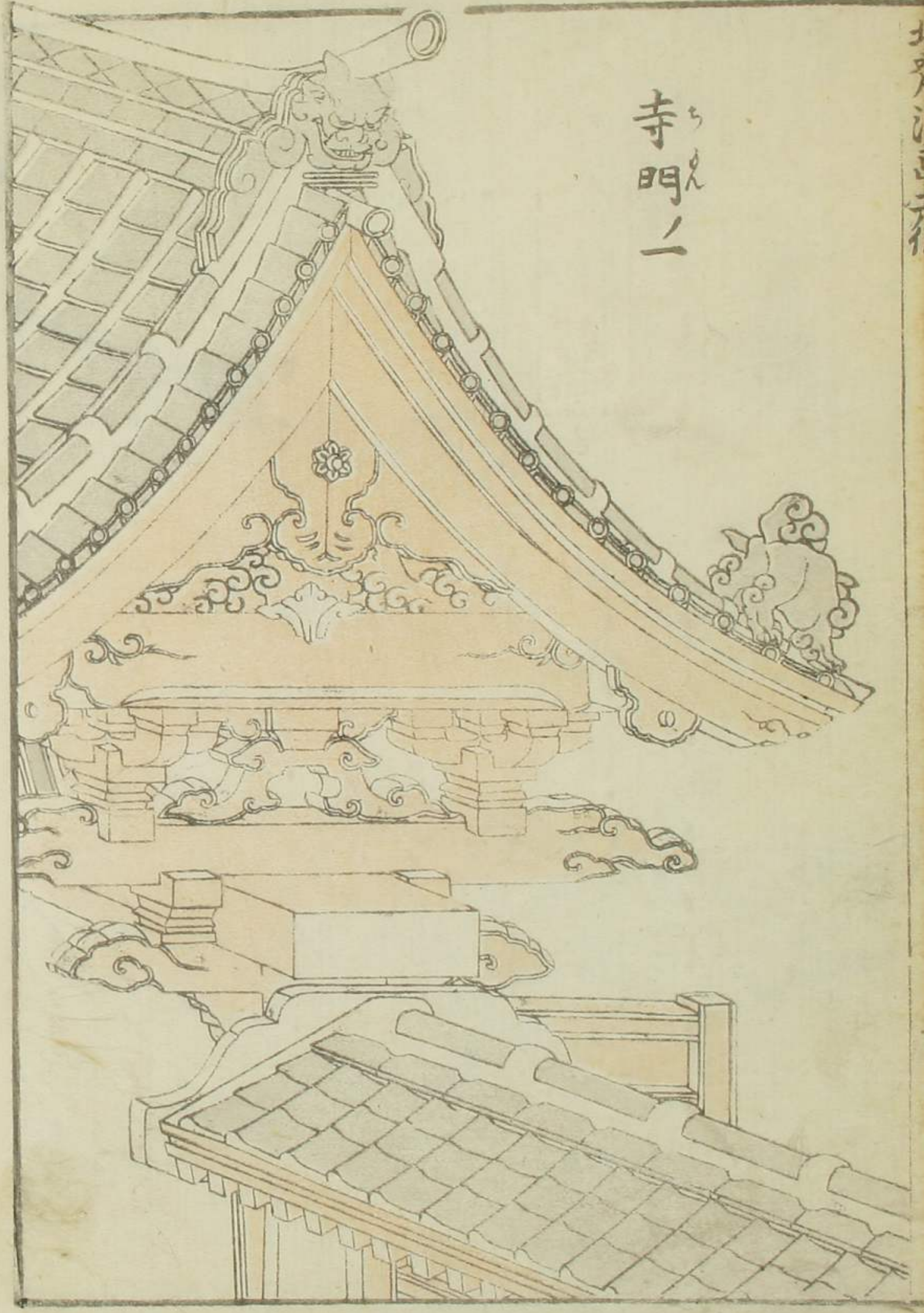


北齊畫卷之二



北齊畫卷之二

寺明一

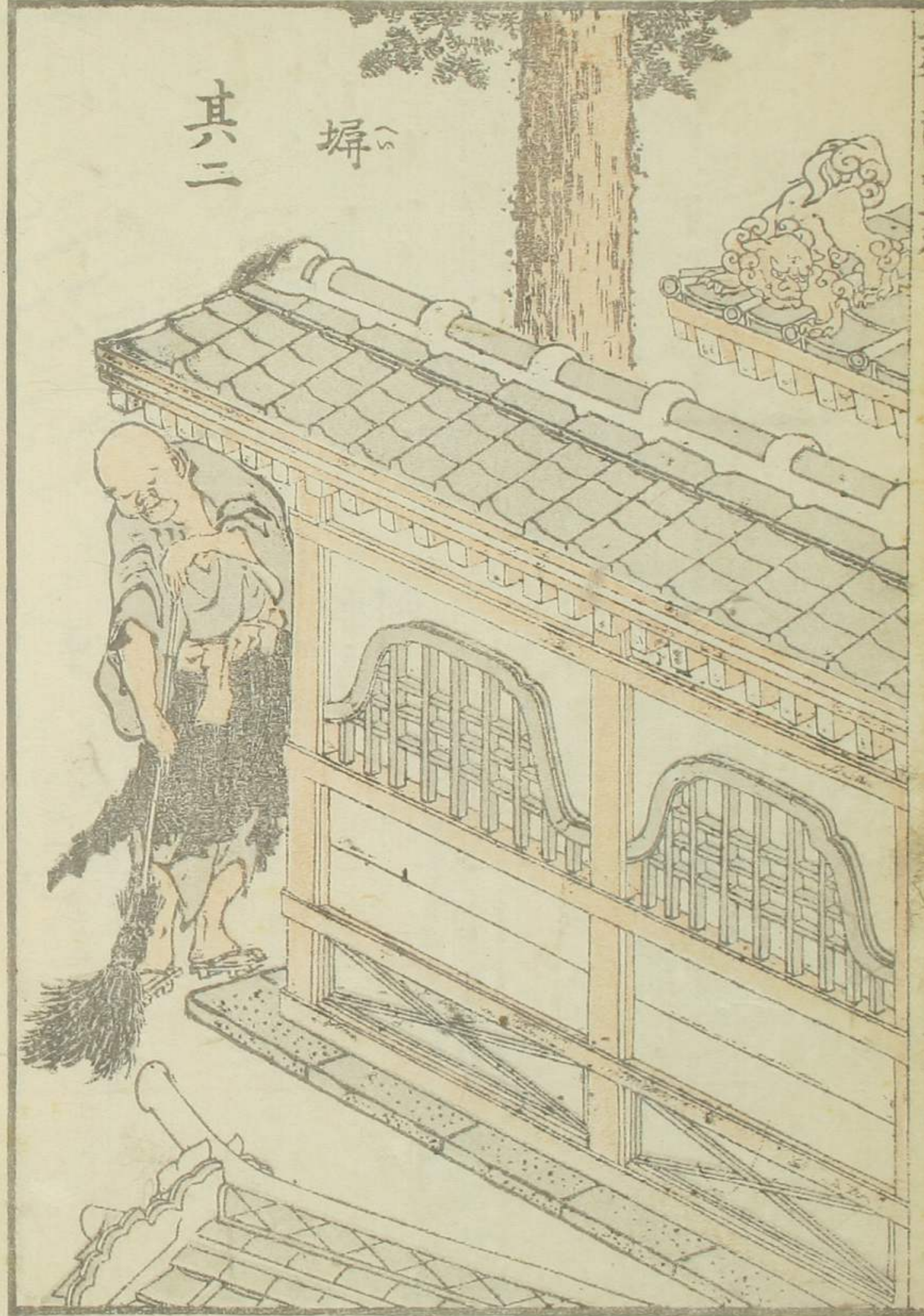


正徳御覽



博雅三佐

其二 堀



北野

中納言行平



中納言
行平

安部仲磨

あべの
仲磨



伊賀^い賀^が^の原^{はら}



藤原^{ふじ}忠^の文^{ちか}





柿本

貴僧正



藤原
實方

楠
正
成



天
拜
山



七代目

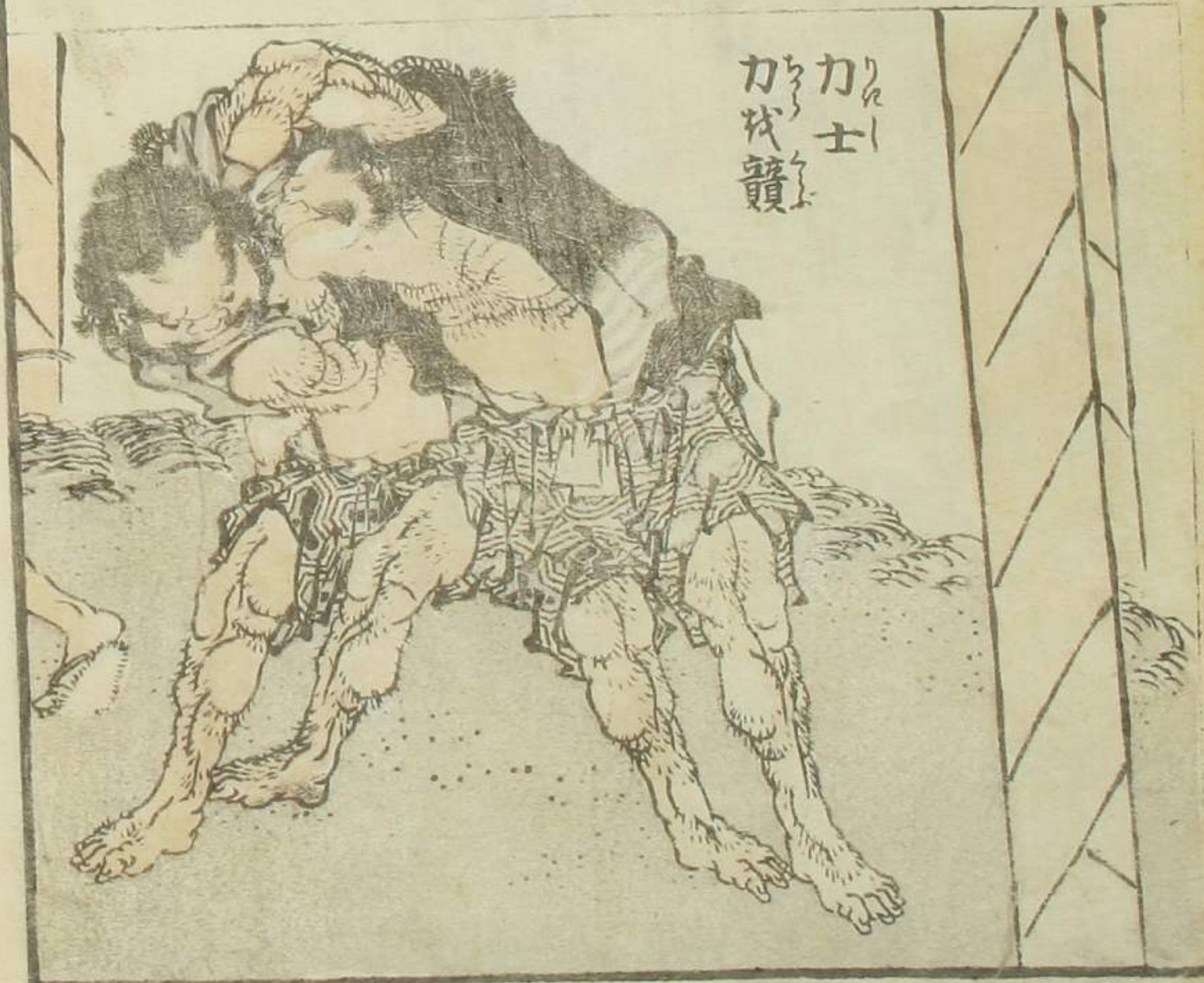


老臣
公連

平
正門



北野



加
士
加
成
競



守屋大臣

西行法師

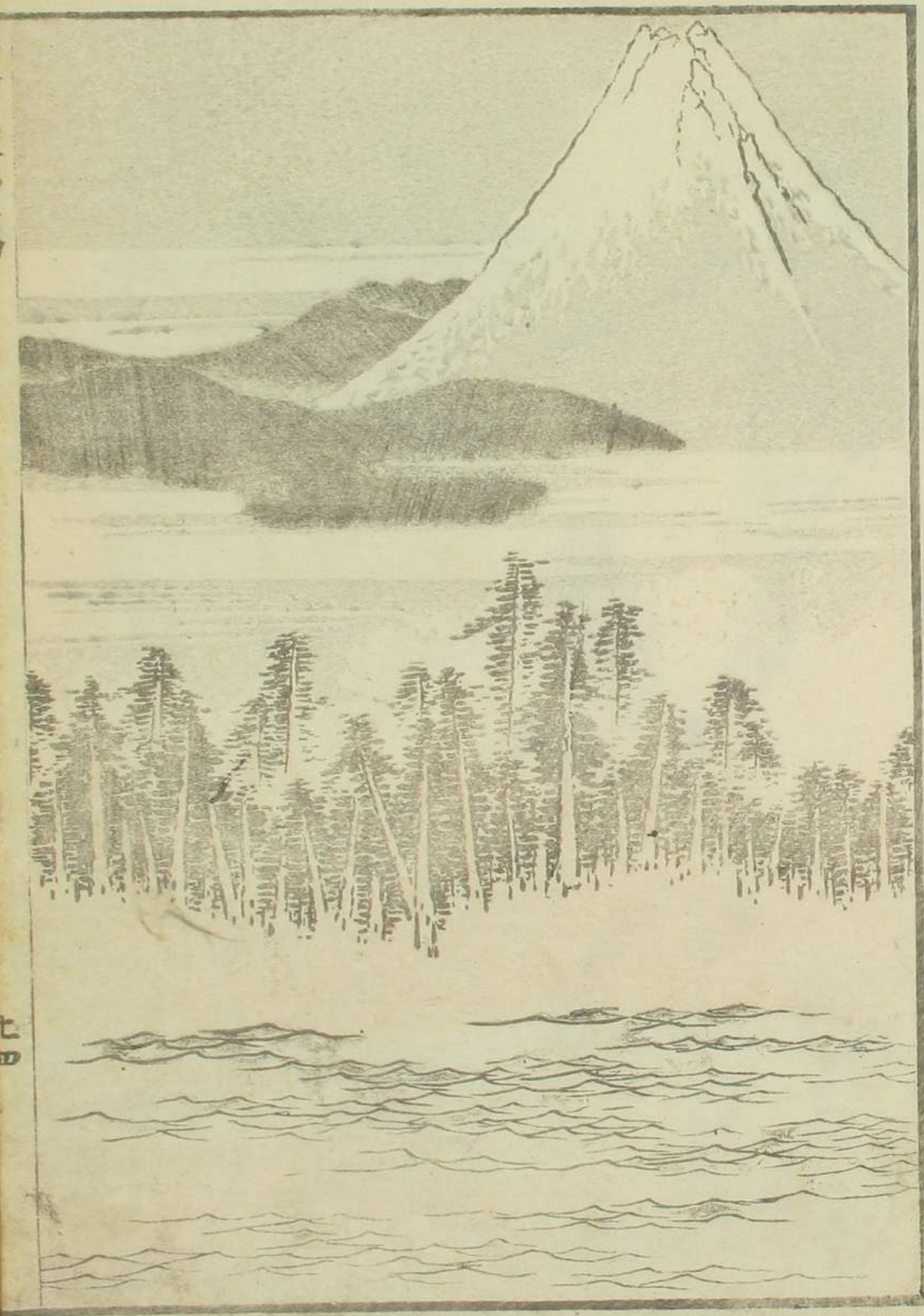


山邊赤く



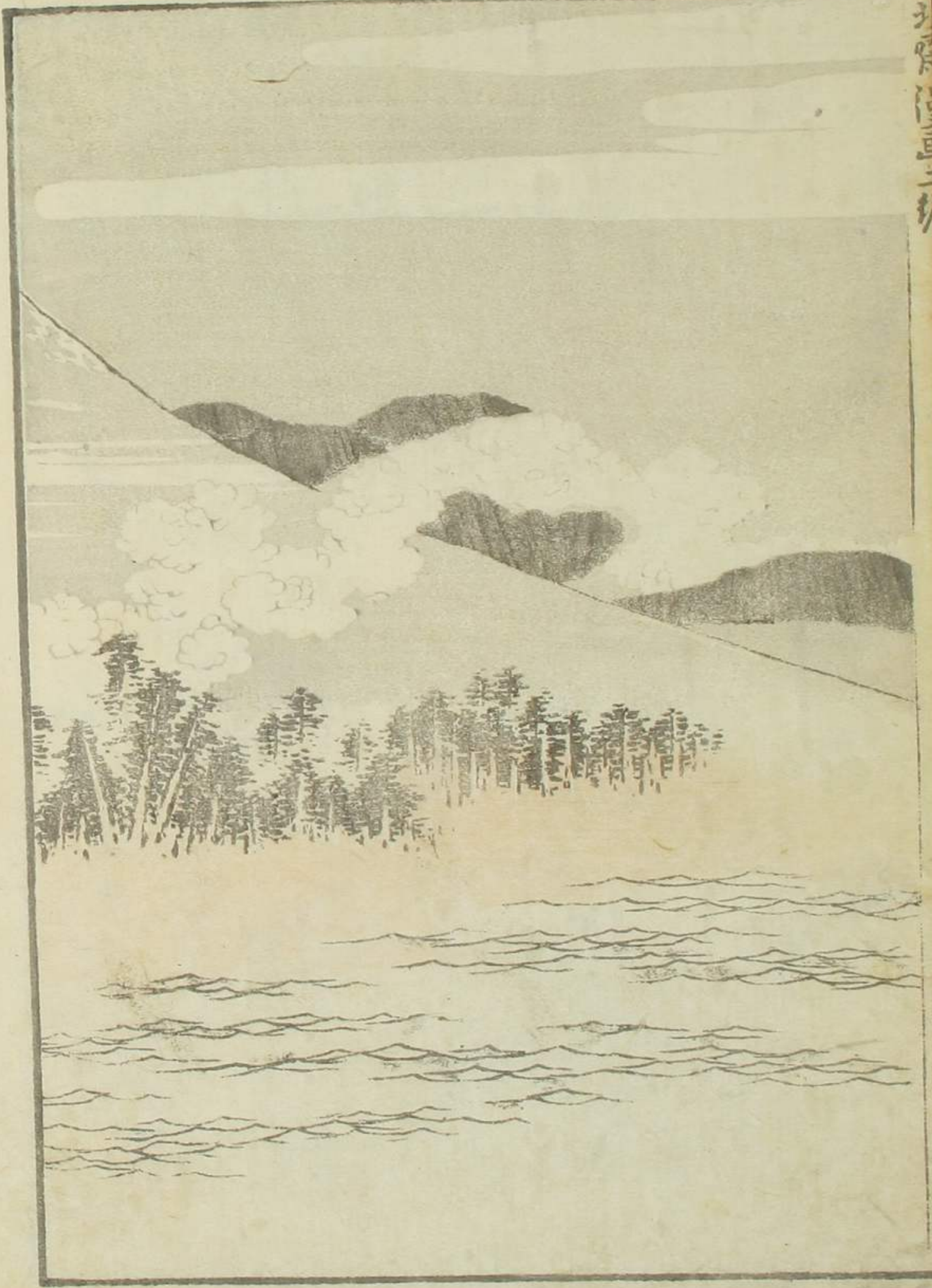
御息所

山崎山崎山崎



七四

山崎山崎山崎



七五

七郎良景



大友
真鳥

兼道



大塔宮

七五

源頼朝



文屋
康秀

源頼朝

七五



あまのうすめいこと
天白女命



さるどひこをいしん
猿田彦太神

三尊の窟



摩訶 飢渴



大元之像



加藍神
禪宗之





關公之像

大石真虎先生筆
狂画神事行燈 全一冊

此画状ハ神仏系事の時家ノの形よかけ或ハ
 社内中よて、掛行燈おごんの工史を主意ハ
 とする所や彼川柳点の粗白深く人情よむせ
 ねしにあらうてことい其虎先生例乃有職古実
 を交へ唯俗眼を一見あきを要し、筆をばらうと
 寸を種とす

名古屋本町七丁目 永樂屋東四郎

